

4.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

1) 動物の状況

(1) 動物相の状況

調査区域において生息が想定される重要な動物種等について把握するため、地域の動物の生息情報について既存資料の整理を行った。既存資料により確認された動物相の状況等を動物群ごとに示す。なお、動物相及び生息地等の情報を収集した既存資料は7件である。各分類群で使用した既存資料を表4.1.5-1に示す。

表 4.1.5-1 動物相及び生息地等の情報を収集した既存資料

No.	動物群	既存資料	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	魚類	昆虫類	クモ類	底生動物	陸産貝類
A	天然記念物 「駒ヶ根市指定文化財一覧」(平成29年7月現在 駒ヶ根市社会教育課)、「宮田村の文化財一覧表」(平成元年2月現在 宮田村インターネット博物館)及び「伊那市の指定文化財一覧表」(平成28年8月現在 伊那市教育委員会生涯学習課文化財係)		●	●	●	●	●	●	●	●	●
B	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成4年6月5日 法律第75号)		●	●	●	●	●	●	●	●	●
C	1 「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 調査結果」(環境省自然環境局生物多様性センター)		●		●	●	●	●		●	●
	2 「第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 調査結果」(環境省自然環境局生物多様性センター)		●	●							
	3 「第4回自然環境保全基礎調査 長野県自然環境情報図」(平成7年 環境庁自然保護局自然環境調査室)			●							
D	「平成17～27年度 河川水辺の国勢調査 動物類調査 天竜川」(河川環境データベース)		●	●	●	●	●	●	●	●	
E	1 「長野県版レッドデータブック 動物編」(平成16年3月 長野県生活環境部環境自然保護課・他)		●	●	●	●	●	●	●	●	●
	2 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」(平成27年3月 長野県環境部自然保護課・他)		●	●	●		●	●	●	●	●
F	1 「駒ヶ根市誌 自然編II [駒ヶ根市の自然]」(平成19年 駒ヶ根市誌編纂委員会)		●	●	●		●	●		●	
	2 「宮田村誌 上巻」(昭和57年 宮田村誌編纂委員会)		●	●	●	●	●	●		●	
	3 「伊那市史 自然編」(昭和56年 伊那市史編纂委員会)		●	●	●	●	●	●		●	
G	1 「ハッチョウトンボを育む会ホームページ」(平成30年7月確認 ハッチョウトンボを育む会)				●		●	●		●	
	2 「ミヤマシジミ研究会パンフレット」(平成30年7月確認 ミヤマシジミ研究会)							●			
	3 「平成28～29年度 清水川生き物調査 調査報告書」(長野県上伊那地方振興局・他)				●		●			●	

a) 哺乳類

調査区域において7目18科45種の哺乳類が確認されている。各既存資料での確認状況を表4.1.5-2に示す。

表 4.1.5-2 動物種及び生息地等の確認状況(哺乳類)

No.	既存資料	確認種数	確認種
A	(天然記念物の指定・所在に係る資料) 「駒ヶ根市指定文化財一覧」 「宮田村の文化財一覧表」 「伊那市の指定文化財一覧表」 調査区域の中での確認情報	0種	※市村では、種指定の天然記念物はない。 ※生息地指定の天然記念物は調査区域に所在しない。
B	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法) 調査区域の中での確認情報	0種	※生息地等保護区は調査区域に所在しない。
C1	「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査結果」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる10×10kmメッシュの確認情報	18種	トガリネズミ、ヒミズ、ニホンザル、タヌキ、イタチ、ツキノワグマ、イノシシ、ニホンジカ、ニホンカモシカ、ムササビ、アカネズミ、ヒメネズミ、ノウサギ など
C2	「第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる5×5kmメッシュの確認情報	6種	タヌキ、キツネ、アナグマ、イノシシ、ニホンジカ、ニホンカモシカ
D	「平成21～27年度 河川水辺の国勢調査 動物類調査 天竜川」 平成21年度の両生類・爬虫類・哺乳類調査の調査地区のうち、調査区域の中に係る地区での確認情報	9種	ジネズミ、コウベモグラ、コウモリ目の一種、タヌキ、キツネ、イタチ、イノシシ、カヤネズミ、アカネズミ
E	「長野県版レッドデータブック 動物編」 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる10×10kmメッシュの確認情報及び駒ヶ根市、宮田村、伊那市(市町村合併前の伊那市)において確認される可能性がある種	6種	カワネズミ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、オヒキコウモリ、カヤネズミ、ヤマネ
F1	「駒ヶ根市誌 自然編Ⅱ [駒ヶ根市の自然]」 駒ヶ根市において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	37種	カワネズミ、ヒミズ、コウベモグラ、キクガシラコウモリ、アブラコウモリ、ニホンザル、キツネ、アナグマ、ハクビシン、イノシシ、ニホンジカ、ホンドモモンガ、ヤチネズミ、ハタネズミ、クマネズミ など
F2	「宮田村誌 上巻」 宮田村において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	22種	ニホンザル、タヌキ、キツネ、テン、イタチ、アナグマ、ツキノワグマ、イノシシ、ニホンリス、ホンドモモンガ、ムササビ、カゲネズミ、ハタネズミ、カヤネズミ、ヒメネズミ、クマネズミ、ノウサギ など
F3	「伊那市史 自然編」 伊那市(市町村合併前の伊那市)において確認される可能性がある種	41種	トガリネズミ、ジネズミ、ヒメヒミズ、アズマモグラ、コキクガシラコウモリ、ウサギコウモリ、タヌキ、イタチ、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ヤチネズミ、アカネズミ、ハツカネズミ、ヤマネ など

b) 鳥類

調査区域において 19 目 52 科 197 種の鳥類が確認されている。各既存資料での確認状況を表 4.1.5-3 に示す。

表 4.1.5-3 動物種及び生息地等の確認状況(鳥類)

No.	既存資料	確認種数	確認種
A	(天然記念物の指定・所在に係る資料) 「駒ヶ根市指定文化財一覧」 「宮田村の文化財一覧表」 「伊那市の指定文化財一覧表」 調査区域の中での確認情報	0 種	※市村では、種指定の天然記念物はない。 ※生息地指定の天然記念物は調査区域に所在しない。
B	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法) 調査区域の中での確認情報	0 種	※生息地等保護区は調査区域に所在しない。
C2	「第 6 回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる 20×20km メッシュの確認情報	49 種	アオサギ、アマツバメ、ノスリ、ヤマセミ、アオゲラ、モズ、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイス、メジロ、ミソサザイ、カワガラス、トラツグミ、コマドリ、オオルリ、キセキレイ、ホオジロ など
C3	「第 4 回自然環境保全基礎調査 長野県自然環境情報図」 調査区域の中での確認情報	0 種	※長野県では、鳥類の集団繁殖地・集団ねぐらに係る情報の掲載はない。
D	「平成 17～27 年度 河川水辺の国勢調査 動物類調査 天竜川」 平成 17 年度及び平成 27 年度の鳥類調査の調査地区のうち、調査区域の中に係る地区での確認情報	80 種	コハクチョウ、マガモ、コガモ、カワウ、ダイサギ、イカルチドリ、キアシシギ、トビ、カワセミ、ヤマセミ、チョウゲンボウ、カケス、ヒヨドリ、エナガ、ジョウビタキ、セグロセキレイ、カワラヒワ など
E	「長野県版レッドデータブック 動物編」 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる 10×10km メッシュの確認情報及び駒ヶ根市、宮田村、伊那市(市町村合併前の伊那市)において確認される可能性がある種	29 種	トモエガモ、ササゴイ、チュウサギ、ヨタカ、イカルチドリ、コアジサシ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、アカショウビン、ヤマセミ、サンショウクイ、サンコウチョウ、チゴモズ、コヨシキリ など
F1	「駒ヶ根市誌 自然編Ⅱ [駒ヶ根市の自然]」 駒ヶ根市において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	138 種	ヤマドリ、コジュケイ、オシドリ、カルガモ、カワアイサ、カイツブリ、キジバト、コサギ、ヤマシギ、ミサゴ、ハイタカ、コノハズク、カワセミ、コチョウゲンボウ、アカモズ、ヒガラ、ツバメ、オオヨシキリ、キバシリ、ルリビタキ、キビタキ、オオジュリン など
F2	「宮田村誌 上巻」 宮田村において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	47 種	コジュケイ、コガモ、ゴイサギ、ヒクイナ、イソシギ、フクロウ、アカゲラ、モズ、ハシボソガラス、ヒバリ、イワツバメ、メボソムシクイ、ムクドリ、ツグミ、ハクセキレイ、アトリ、ウソ など
F3	「伊那市史 自然編」 伊那市(市町村合併前の伊那市)において確認される可能性がある種	168 種	キジ、コハクチョウ、マガモ、オナガガモ、ミコアイサ、アオバト、ダイサギ、ホトトギス、カッコウ、イカルチドリ、アオシギ、トビ、ノスリ、アオバズク、コゲラ、チョウゲンボウ、オナガ、ヤマガラ、ヤブサメ、センダイムシクイ、ミソサザイ、アカハラ、オオルリ、スズメ、アオジ など

c) 両生類

調査区域において2目6科14種の両生類が確認されている。各既存資料での確認状況を表4.1.5-4に示す。

表 4.1.5-4 動物種及び生息地等の確認状況(両生類)

No.	既存資料	確認種数	確認種
A	(天然記念物の指定・所在に係る資料) 「駒ヶ根市指定文化財一覧」 「宮田村の文化財一覧表」 「伊那市の指定文化財一覧表」 調査区域の中での確認情報	0種	※市村では、種指定の天然記念物はない。 ※生息地指定の天然記念物は調査区域に所在しない。
B	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法) 調査区域の中での確認情報	0種	※生息地等保護区は調査区域に所在しない。
C1	「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査結果」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる10×10kmメッシュの確認情報	2種	ナガレタゴガエル、トノサマガエル
D	「平成21～27年度 河川水辺の国勢調査 動物類調査 天竜川」 平成21年度の両生類・爬虫類・哺乳類調査の調査地区のうち、調査区域の中に係る地区での確認情報	4種	ニホンアマガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、カジカガエル
E	「長野県版レッドデータブック 動物編」 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる10×10kmメッシュの確認情報及び駒ヶ根市、宮田村、伊那市(市町村合併前の伊那市)において確認される可能性がある種	2種	ツチガエル、ナゴヤダルマガエル
F1	「駒ヶ根市誌 自然編Ⅱ [駒ヶ根市の自然]」 駒ヶ根市において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	1種	アズマヒキガエル
F2	「宮田村誌 上巻」 宮田村において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	6種	ハコネサンショウウオ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、トノサマガエル
F3	「伊那市史 自然編」 伊那市(市町村合併前の伊那市)において確認される可能性がある種	12種	ハコネサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンアマガエル、ヤマアカガエル、ツチガエル、カジカガエル など
G1	「ハッチョウトンボを育む会ホームページ」 駒ヶ根市南割公園での確認情報	1種	シュレーゲルアオガエル
G3	「平成28～29年度 清水川生き物調査 調査報告書」 清水川での確認情報	4種	ニホンアマガエル、ツチガエル、トノサマガエル など

d) 爬虫類

調査区域において2目5科11種の爬虫類が確認されている。各既存資料での確認状況を表4.1.5-5に示す。

表 4.1.5-5 動物種及び生息地等の確認状況(爬虫類)

No.	既存資料	確認種数	確認種
A	(天然記念物の指定・所在に係る資料) 「駒ヶ根市指定文化財一覧」 「宮田村の文化財一覧表」 「伊那市の指定文化財一覧表」 調査区域の中での確認情報	0種	※市村では、種指定の天然記念物はない。 ※生息地指定の天然記念物は調査区域に所在しない。
B	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法) 調査区域の中での確認情報	0種	※生息地等保護区は調査区域に所在しない。
C1	「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査結果」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる10×10kmメッシュの確認情報	0種	※確認情報はない。
D	「平成17～27年度 河川水辺の国勢調査 動物類調査 天竜川」 平成21年度の両生類・爬虫類・哺乳類調査の調査地区のうち、調査区域の中に係る地区での確認情報	2種	シマヘビ、ヤマカガシ
E	「長野県版レッドデータブック 動物編」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる10×10kmメッシュの確認情報及び駒ヶ根市、宮田村、伊那市(市町村合併前の伊那市)において確認される可能性がある種	0種	※確認情報はない。
F2	「宮田村誌 上巻」 宮田村において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	8種	ニホントカゲ、ジムグリ、アオダイショウ、シマヘビ、ヒバカリ、シロマダラ、ヤマカガシ、ニホンマムシ
F3	「伊那市史 自然編」 伊那市(市町村合併前の伊那市)において確認される可能性がある種	11種	クサガメ、ニホンイシガメ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ジムグリ、シマヘビ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ など

e) 魚類

調査区域において8目14科47種の魚類が確認されている。各既存資料での確認状況は表4.1.5-6に示す。

表 4.1.5-6 動物種及び生息地等の確認状況(魚類)

No.	既存資料	確認種数	確認種
A	(天然記念物の指定・所在に係る資料) 「駒ヶ根市指定文化財一覧」 「宮田村の文化財一覧表」 「伊那市の指定文化財一覧表」 調査区域の中での確認情報	0種	※市村では、種指定の天然記念物はない。 ※生息地指定の天然記念物は調査区域に所在しない。
B	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法) 調査区域の中での確認情報	0種	※生息地等保護区は調査区域に所在しない。
C1	「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査結果」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる10×10kmメッシュの確認情報	13種	スナヤツメ南方種、ニホンウナギ、オイカワ、アブラハヤ、ウグイ、モツゴ、カマツカ、ドジョウ、アユ、ヤマトイワナ、サツキマス(アマゴ)、カジカ大卵型 など
D	「平成17～27年度 河川水辺の国勢調査 動物類調査 天竜川」 平成19年度及び平成24年度の魚類調査の調査地区のうち、調査区域の中に係る地区での確認情報	24種	オイカワ、アブラハヤ、ウグイ、モツゴ、カラドジョウ、シマドジョウ、ナマズ、ワカサギ、ニジマス、ウキゴリ、カワヨシノボリ、ヌマチチブ など
E	「長野県版レッドデータブック 動物編」 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる10×10kmメッシュの確認情報及び駒ヶ根市、宮田村、伊那市(市町村合併前の伊那市)において確認される可能性がある種	7種	スナヤツメ類、ドジョウ、アカザ、ヤマトイワナ、ニッコウイワナ、サツキマス(アマゴ)、カジカ大卵型
F1	「駒ヶ根市誌 自然編II [駒ヶ根市の自然]」 駒ヶ根市において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	32種	ニホンウナギ、コイ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、ソウギョ、アブラハヤ、カマツカ、ドジョウ、シマドジョウ、ナマズ、アカザ、ヤマトイワナ、サツキマス(アマゴ)、ミナミメダカ、オオクチバス など
F2	「宮田村誌 上巻」 宮田村において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	18種	スナヤツメ南方種、コイ、オイカワ、ウグイ、タモロコ、カマツカ、ドジョウ科の一種、アユ、ヤマトイワナ、ニジマス、ミナミメダカ、カジカ大卵型 など
F3	「伊那市史 自然編」 伊那市(市町村合併前の伊那市)において確認される可能性がある種	32種	ニホンウナギ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、アブラハヤ、モツゴ、タモロコ、シマドジョウ、ナマズ、ワカサギ、ヤマトイワナ、ニジマス、サツキマス(アマゴ)、ミナミメダカ、ヨシノボリ属の一種 など
G1	「ハッチョウトンボを育む会ホームページ」 駒ヶ根市南割公園での確認情報	2種	ドジョウ、ミナミメダカ
G3	「平成28～29年度 清水川生き物調査 調査報告書」 清水川での確認情報	7種	スナヤツメ南方種、アブラハヤ、ウグイ、ドジョウ、カラドジョウ、サツキマス(アマゴ)、ヨシノボリ属の一種

f) 昆虫類

調査区域において 17 目 260 科 2, 048 種の昆虫類が確認されている。各既存資料での確認状況を表 4. 1. 5-7 (P4-53~54) に示す。

表 4.1.5-7(1)動物種及び生息地等の確認状況(昆虫類)

No.	既存資料	確認種数	確認種
A	(天然記念物の指定・所在に係る資料) 「駒ヶ根市指定文化財一覧」 「宮田村の文化財一覧表」 「伊那市の指定文化財一覧表」 調査区域の中での確認情報	0 種	※市村では、種指定の天然記念物はない。 ※生息地指定の天然記念物は調査区域に所在しない。
B	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法) 調査区域の中での確認情報	0 種	※生息地等保護区は調査区域に所在しない。
C1	「第 5 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査結果」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる 10×10km メッシュの確認情報	79 種	アキアカネ、ニイニイゼミ、チャボハナカミキリ、イチモンジセセリ、ナミアゲハ、ツマグロキチョウ、ウラナミアカシジミ、クロミドリシジミ、ベニシジミ、ウラギンシジミ、ミドリヒョウモン、キベリタテハ、ルリタテハ、ゴマダラチョウ、オオヒカゲ、ヒメジャノメ、エゾシロシタバ など
D	「平成 17~27 年度 河川水辺の国勢調査 動物類調査 天竜川」 平成 20 年度の陸上昆虫類等調査の調査地区のうち、調査区域の中に係る地区での確認情報	461 種	ホソミオツネトンボ、ギンヤンマ、ナツアカネ、クサキリ、エンマコオロギ、ハラヒシバタ、トノサマバタ、アブラゼミ、オオヨコバイ、ホソヘリカメムシ、ヒラタゴモクムシ、カナブン、ナナホシテントウ、ゴマダラカミキリ、ウリハムシ、イネミズゾウムシ、クロオアリ、スズバチ、ミズアブ、ウルマーシマトビケラ、ヨモギネムシガ、フキノメイガ、モンキチョウ、キタテハ、ホシホソバ、ヨモギコヤガ など
E	「長野県版レッドデータブック 動物編」 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる 10×10km メッシュの確認情報及び駒ヶ根市、宮田村、伊那市(市町村合併前の伊那市)において確認される可能性がある種	96 種	クロスジギンヤンマ、ハマスズ、イナオサムシ、セアカオサムシ、ミズスマシ、マエモンシデムシ、ヒゲブトハナムグリ、ジュウロクホシテントウ、ヨツボシカミキリ、モンズメバチ、チャマダラセセリ、キマダラセセリ、ヤマキチョウ、ミヤマシジミ、イブキスズメ、コシロシタバ など
F1	「駒ヶ根市誌 自然編Ⅱ [駒ヶ根市の自然]」 駒ヶ根市において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	1, 235 種	チラカゲロウ、クロマダラカゲロウ、ハグロトンボ、ハッチョウトンボ、コノシメトンボ、ヤマトカワゲラ、オオカマキリ、カンタン、コバネイナゴ、ヒグラシ、マルアワフキ、ミズカマキリ、ブチヒゲカメムシ、ノグチアオゴミムシ、ミヤマクワガタ、ヨツボシテントウダマシ、クワカミキリ、オトシブミ、コフキゾウムシ、キイロスズメバチ、クマバチ、ニホンミツバチ、シオヤアブ、ヒゲナガカワトビケラ、リンゴコカクモンハマキ、シロテンキノメイガ、キアゲハ、ツマグロヒョウモン、オオムラサキ、マツカレハ、ヤママユ、マメドクガ、テンクロアツバ など

表 4.1.5-7(2)動物種及び生息地等の確認状況(昆虫類)

No.	既存資料	確認種数	確認種
F2	「宮田村誌 上巻」 宮田村において確認される可能性がある種（但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く）	110 種	オニヤンマ、シオカラトンボ、コカマキリ、ヒガシキリギリス、ツヅレサセコオロギ、ショウリョウバッタ、ツクツクボウシ、エゾゼミ、タイコウチ、ノコギリクワガタ、トホシテントウ、アズキマメゾウムシ、キアシナガバチ、カラスアゲハ、キタキチョウ、シロヒトリ、アケビコノハ など
F3	「伊那市史 自然編」 伊那市（市町村合併前の伊那市）において確認される可能性がある種	788 種	ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、マメコガネ、カブトムシ、フタスジゴマフカミキリ、アミメトビハマキ、ニカメイガ、ウスバシロチョウ、モンシロチョウ、イチモンジチョウ、コムシジ、コムラサキ、ジャノメチョウ、ベニスジヒメシャク、クワエダシャク、カレハガ、クスサン、マイマイガ、キクキンウワバ など
G1	「ハッチョウトンボを育む会ホームページ」 駒ヶ根市南割公園での確認情報	7 種	クロスジギンヤンマ、ショウジョウトンボ、ハッチョウトンボ、チョウトンボ、アメンボ、コオイムシ、マツモムシ
G2	「ミヤマシジミ研究会パンフレット」 調査区域が含まれる上伊那地域での確認情報	11 種	ミズイロオナガシジミ、ミドリシジミ、コツバメ、トラフシジミ、ベニシジミ、ウラナシジミ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、ヒメシジミ、ミヤマシジミ など

g) クモ類

調査区域において1目10科35種のクモ類等が確認されている。各既存資料での確認状況を表4.1.5-8に示す。

表 4.1.5-8 動物種及び生息地等の確認状況(クモ類)

No.	既存資料	確認種数	確認種
A	(天然記念物の指定・所在に係る資料) 「駒ヶ根市指定文化財一覧」 「宮田村の文化財一覧表」 「伊那市の指定文化財一覧表」 調査区域の中での確認情報	0 種	※市村では、種指定の天然記念物はない。 ※生息地指定の天然記念物は調査区域に所在しない。
B	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法) 調査区域の中での確認情報	0 種	※生息地等保護区は調査区域に所在しない。
D	「平成17～27年度 河川水辺の国勢調査 動物類調査 天竜川」 平成20年度の陸上昆虫類等調査の調査地区のうち、調査区域の中に係る地区での確認情報	35 種	ヤリグモ、ナガコガネグモ、アシナガグモ、アズマキシダグモ、ウツキコモリグモ、ヒメフクログモ、メキリグモ、ハナグモ、ネコハエトリ、ヤハズハエトリ など
E	「長野県版レッドデータブック 動物編」 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる10×10kmメッシュの確認情報及び駒ヶ根市、宮田村、伊那市（市町村合併前の伊那市）において確認される可能性がある種	0 種	※確認情報はない。

h) 底生動物

調査区域において4門7綱19目104科278種の底生動物が確認されている。各既存資料での確認状況を表4.1.5-9に示す。

表 4.1.5-9 動物種及び生息地等の確認状況(底生動物)

No.	既存資料	確認種数	確認種
A	(天然記念物の指定・所在に係る資料) 「駒ヶ根市指定文化財一覧」 「宮田村の文化財一覧表」 「伊那市の指定文化財一覧表」 調査区域の中での確認情報	0種	※市村では、種指定の天然記念物はない。 ※生息地指定の天然記念物は調査区域に所在しない。
B	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法) 調査区域の中での確認情報	0種	※生息地等保護区は調査区域に所在しない。
C1	「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査結果」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる10×10kmメッシュの確認情報	3種	カワニナ、コノシメトンボ、アキアカネ
D	「平成17～27年度 河川水辺の国勢調査 動物類調査 天竜川」 平成19年度及び平成24年度の底生動物調査の調査地区のうち、調査区域の中に係る地区での確認情報	199種	サカマキガイ、ナミズミミズ、ヌカエビ、サワガニ、フタモンコカゲロウ、ヒメヒラタカゲロウ、クシゲマダラカゲロウ、ミヤマサナエ、コオニヤンマ、カミムラカワゲラ、ミズカマキリ、ゴマダラチビゲンゴロウ、ヒラタドROMシ、ムナグロナガレトビケラ、ナミコガタシマトビケラ など
E	「長野県版レッドデータブック 動物編」 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる10×10kmメッシュの確認情報及び駒ヶ根市、宮田村、伊那市(市町村合併前の伊那市)において確認される可能性がある種	12種	オオタニシ、ヒラマキガイモドキ、クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、オオコオイムシ、タイコウチ、クロゲンゴロウ、ゲンゴロウ、ミズスマシ、ガムシ、ゲンジボタル、ニホンアマカモドキ
F1	「駒ヶ根市誌 自然編II [駒ヶ根市の自然]」 駒ヶ根市において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	130種	シマイシビル、チラカゲロウ、キイロヒラタカゲロウ、オオマダラカゲロウ、ハグロトンボ、ハッチョウトンボ、ノシメトンボ、モンカワゲラ、ヤマトカワゲラ、ヒメアメンボ、ミズムシ、ヘビトンボ、ヒメゲンゴロウ、ウスバヒメガガンボ、ミズアブ、ミヤマナガレアブ、タニガワトビケラ、ミヤマシマトビケラ など
F2	「宮田村誌 上巻」 宮田村において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	19種	タニシ科の一種、カワニナ、オニヤンマ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、アキアカネ、アメンボ、コオイムシ、タガメ、タイコウチ、ミズスマシ、ゲンジボタル、ヘイケボタル、イネミギワバエ など
F3	「伊那市史 自然編」 伊那市(市町村合併前の伊那市)において確認される可能性がある種	0種	※底生動物種に係る昆虫類の確認情報は無い。
G1	「ハッチョウトンボを育む会ホームページ」 駒ヶ根市南割公園での確認情報	7種	クロスジギンヤンマ、ショウジョウトンボ、ハッチョウトンボ、チョウトンボ、アメンボ、コオイムシ、マツモムシ
G3	「平成28～29年度 清水川生き物調査 調査報告書」 清水川での確認情報	25種	ミズムシ(甲殻類)、ヨコエビ科の一種、サワガニ、ハグロトンボ、アメンボ、ヒゲナガカワトビケラ など

i) 陸産貝類

調査区域において2目4科11種の陸産貝類が確認されている。各既存資料での確認状況を表4.1.5-10に示す。

表 4.1.5-10 動物種及び生息地等の確認状況(陸産貝類)

No.	既存資料	確認種数	確認種
A	(天然記念物の指定・所在に係る資料) 「駒ヶ根市指定文化財一覧」 「宮田村の文化財一覧表」 「伊那市の指定文化財一覧表」 調査区域の中での確認情報	0種	※市村では、種指定の天然記念物はない。 ※生息地指定の天然記念物は調査区域に所在しない。
B	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法) 調査区域の中での確認情報	0種	※生息地等保護区は調査区域に所在しない。
C1	「第5回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動植物分布調査結果」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる10×10kmメッシュの確認情報	8種	ヒダゴマガイ、ヒダリマキゴマガイ、ヒメベッコウガイ、ニッポンマイマイ、ウスカワマイマイ、オゼマイマイ、ミスジマイマイ、エンスイマイマイ
E	「長野県版レッドデータブック 動物編」 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」 都市計画対象道路事業実施区域が含まれる10×10kmメッシュの確認情報及び駒ヶ根市、宮田村、伊那市(市町村合併前の伊那市)において確認される可能性がある種	3種	トガリキビ、オオタキキビ、ヤマタカマイマイ

(2) 重要な動物及び重要な生息地の状況

重要な動物種及び重要な生息地の選定根拠を表4.1.5-11に、選定基準を表4.1.5-12(P4-58～59)に示す。

表 4.1.5-11 重要な動物種及び重要な生息地の選定根拠

		法令、文献等	選定根拠
法令による指定	I	「文化財保護法」 (昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)	・ 特別天然記念物 ・ 国指定天然記念物
		「長野県文化財保護条例」 (昭和 50 年 12 月 25 日 条例第 44 号)	・ 県指定天然記念物
		「駒ヶ根市文化財保護条例」 (昭和 52 年 3 月 25 日 条例第 16 号) 「宮田村文化財保護条例」 (昭和 52 年 12 月 21 日 条例第 26 号) 「伊那市文化財保護条例」 (平成 18 年 3 月 31 日 条例第 201 号)	・ 市村指定天然記念物
II	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)	・ 国内希少野生動植物種 ・ 国際希少野生動植物種 ・ 特定第一種国内希少野生動植物種 ・ 特定第二種国内希少野生動植物種 ・ 緊急指定種 ・ 生息地等保護区	
III	「長野県希少野生動植物保護条例」 (平成 15 年 3 月 24 日 条例第 32 号)	・ 指定希少野生動植物 ・ 特別指定希少野生動植物	
文献による指定	IV	「環境省レッドリスト 2018 の公表について」 (平成 30 年 5 月 22 日 環境省自然環境局野生生物課)	・ 絶滅 (EX) ・ 野生絶滅 (EW) ・ 絶滅危惧 I 類 (CR+EN) ・ 絶滅危惧 I A 類 (CR) ・ 絶滅危惧 I B 類 (EN) ・ 絶滅危惧 II 類 (VU) ・ 準絶滅危惧 (NT) ・ 情報不足 (DD) ・ 地域個体群 (LP)
		「長野県版レッドリスト 動物編 2015」 (平成 27 年 3 月 長野県環境部自然保護課・他)	・ 絶滅 (EX) ・ 野生絶滅 (EW) ・ 絶滅危惧 I 類 (CR+EN) ・ 絶滅危惧 I A 類 (CR) ・ 絶滅危惧 I B 類 (EN) ・ 絶滅危惧 II 類 (VU) ・ 準絶滅危惧 (NT) ・ 情報不足 (DD) ・ 地域個体群 (LP) ・ 留意種 (N)
		「第 4 回自然環境保全基礎調査 長野県自然環境情報図」 (平成 7 年 環境庁自然保護局自然環境調査室)	・ 鳥類の集団繁殖地 及び集団ねぐら
その他	VII	「ハッチョウトンボを育む会ホームページ」 (平成 30 年 7 月確認 ハッチョウトンボを育む会) 「ミヤマシジミ研究会パンフレット」 (平成 30 年 7 月確認 ミヤマシジミ研究会)	・ 希少種の生息のための保護又は保全研究の場所

表 4.1.5-12(1)重要な動物種及び重要な生息地の選定基準

区分		選定基準	
I	特別天然記念物	国指定天然記念物のうち特に重要な記念物について指定する。	
	国指定天然記念物	国指定文化財の記念物うち、動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）及び植物（自生地を含む。）で我が国にとって学術上価値の高いもの。	
	県指定天然記念物	県指定文化財の記念物うち、動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）及び植物（自生地を含む。）で、県にとって学術上価値の高いもの。	
	市村指定天然記念物	市町指定文化財の記念物うち、動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）及び植物（自生地を含む。）で、市村にとって学術上価値の高いもの。	
II	国内希少野生動植物種	その個体が本邦に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種であって、政令で定めるもの。	
	国際希少野生動植物種	国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種（国内希少野生動植物種を除く。）であって、政令で定めるもの。	
	特定第一種 国内希少野生動植物種	次に掲げる要件のいずれにも該当する国内希少野生動植物種であって、政令で定めるものをいう。 一 商業的に個体の繁殖をさせることができるものであること。 二 国際的に協力して種の保存を図ることとされているものでないこと。	
	特定第二種 国内希少野生動植物種	次に掲げる要件のいずれにも該当する国内希少野生動植物種であって、政令で定めるものをいう。 一 種の個体の主要な生息地若しくは生育地が消滅しつつあるものであること又はその種の個体の生息若しくは生育の環境が著しく悪化しつつあるものであること。 二 種の存続に支障を来す程度にその種の個体の数が著しく少ないものでないこと。 三 繁殖による個体の数の増加の割合が低いものでないこと。 四 国際的に協力して種の保存を図ることとされているものでないこと。	
	緊急指定種	環境大臣が、国内希少野生動植物種及び国際希少野生動植物種以外の野生動植物の種の保存を特に緊急に図る必要があると認めるときに指定する種。（指定公示日の2日後から3年間）	
	生息地等保護区	国内希少野生動植物種に指定されている種のうち、その生息・生育環境の保全を図る必要があると認める地区であって、政令で定めるもの。	
III	指定希少野生動植物	希少野生動植物のうち、特に保護を図る必要があるもの。 <補 足> 希少野生動植物とは、県内に生息し、又は生育する野生動植物の種又は地域個体群であって、次の各号のいずれかに該当するものをいう。 (1) その存続に支障を来す程度にその個体の数が著しく少ないもの (2) その個体の数が減少しつつあるもの (3) その個体の生息地又は生育地が消滅しつつあるもの (4) その個体の生息又は生育の環境が悪化しつつあるもの (5) 前各号に掲げるもののほか、その存続に支障を来す事情があるもの	
	特別指定希少野生動植物	指定希少野生動植物のうち、特に緊急に保護を図る必要があるもの。	
IV	絶滅 (EX)	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。	
	野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種。	
	絶滅危惧	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種。
		絶滅危惧 I A 類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
		絶滅危惧 I B 類 (EN)	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
	絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅の危険が増大している種。	
	準絶滅危惧 (NT)	存続基盤が脆弱な種。	
情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種。		
地域個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。		

表 4.1.5-12(2) 重要な動物種及び重要な生息地の選定基準

区分		選定基準	
V	絶滅 (EX)	長野県内において絶滅したと考えられる種。	
	野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種。	
	絶滅危惧	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	長野県内において絶滅の危機に瀕している種。
		絶滅危惧 I A 類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
		絶滅危惧 I B 類 (EN)	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
		絶滅危惧 II 類 (VU)	長野県内において絶滅の危険が増大している種。
	準絶滅危惧 (NT)	長野県内において存続基盤が脆弱な種。	
	情報不足 (DD)	長野県内において評価するだけの情報が不足している種。	
	地域個体群 (LP)	長野県内において地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。	
留意種 (N)	長野県内において絶滅危惧の対象種ではないが、特殊な事情を有するため、留意すべき種。		
VI	鳥類の集団繁殖地 及び集団ねぐら	サギ類やツバメ類等の 22 種の集団繁殖地や集団ねぐら。集団繁殖地やねぐらの環境が破壊された場合、その地域に生息する個体群全体が大きな影響を受けることになる。	
VII	希少種の生息のための 保護又は保全研究の場所	希少種の生息のため、生息地の整備、観察会の実施、希少種の保護と普及活動等を行っている場所。	

a) 重要な動物種

調査区域における動物の確認種のうち重要な種の該当種は、哺乳類が5目9科13種、鳥類が15目28科60種、両生類が2目3科6種、爬虫類が2目2科3種、魚類が7目9科18種、昆虫類が13目59科151種、底生動物が2門2綱9目17科23種、陸産貝類が2目3科4種であった。なお、クモ類において重要な動物種は確認されていない。動物の確認種のうち貴重な種の該当種を表4.1.5-13から表4.1.5-20(P4-60~71)に示す。なお、重要な動物種のうち魚類の『ゲンゴロウブナ』は、当該地域での自然分布しない種であり、他地域からの移入個体の確認である。

表 4.1.5-13 重要な動物種の確認状況(哺乳類)

目名	科名	種名	既存資料	指定状況				
				I	II	III	IV	V
モグラ	トガリネズミ	トガリネズミ	C1, F1, F3					NT
		カワネズミ	E, F1, F3					NT
	モグラ	ミズラモグラ	F1, F3				NT	VU
コウモリ	ヒナコウモリ	シナノホオヒゲコウモリ	F3					EN
		ヤマコウモリ	F1, F3				VU	VU
		ヒナコウモリ	F3					EN
		ウサギコウモリ	F1, F3					VU
	オヒキコウモリ	オヒキコウモリ	E				VU	DD
ネコ	イタチ	オコジョ	F2, F3	県天			NT	NT
ウシ	ウシ	ニホンカモシカ	C1, C2, F1, F3	特天				
ネズミ	リス	ホンドモモンガ	F1, F2, F3	県天				NT
	ネズミ	カヤネズミ	D, E, F1, F2					VU
	ヤマネ	ヤマネ	E, F3	国天				NT
合計 : 5目9科13種			-	4種	0種	0種	4種	12種

注：各指定状況の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- I / 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:長野県指定天然記念物、
駒天:駒ヶ根市指定天然記念物、宮天:宮田村指定天然記念物、伊天:伊那市指定天然記念物
- II / 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、特一:特定第一種国内希少野生動植物種、特二:特定第二種国内希少野生動植物種、緊急:緊急指定種
- III / 「長野県希少野生動植物保護条例」(平成15年3月24日 条例第32号)
指定:指定希少野生動植物、特別:特別指定希少野生動植物
- IV / 「環境省レッドリスト2018の公表について」(平成30年5月22日 環境省自然環境局野生生物課)
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧IB類、
VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:地域個体群
- V / 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」(平成27年3月 長野県環境部自然保護課・他)
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧IB類、
VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、N:留意種、LP:地域個体群

表 4.1.5-14(1) 重要な動物種の確認状況(鳥類)

目名	科名	種名	既存資料	指定状況				
				I	II	III	IV	V
キジ	キジ	ライチョウ	F3	特天	国内	指定	EN	EN
		ウズラ	F3				VU	CR
カモ	カモ	ヒシクイ	F1	国天			VU	
		マガン	F3	国天			NT	
		オシドリ	F1, F3				DD	N
		トモエガモ	E, F1, F3				VU	EN
		ホオジロガモ	F3					VU
ミズナギドリ	アホウドリ	コアホウドリ	F1				EN	
ペリカン	サギ	ヨシゴイ	F1, F3				NT	EN
		オオヨシゴイ	F3				CR	
		ミゾゴイ	F3				VU	EN
		ササゴイ	D, E, F1, F3					VU
		チュウサギ	E, F1, F3				NT	NT
		コサギ	D, E, F1, F2, F3					NT
ツル	クイナ	クイナ	F2, F3					DD
		ヒクイナ	F2, F3				NT	CR
ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	E, F1, F3				NT	VU
アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	F1					NT
チドリ	チドリ	ケリ	E, F3				DD	VU
		イカルチドリ	D, E, F1, F3					NT
	シギ	ヤマシギ	F1, F3					DD
		オオジシギ	F3				NT	CR
		アカアシシギ	F2				VU	
		アオアシシギ	D, E					VU
		キアシシギ	D, E					NT
		ハマシギ	E, F1				NT	NT
	タマシギ	タマシギ	F3				VU	CR
	カモメ	コアジサシ	E				VU	CR
タカ	ミサゴ	ミサゴ	E, F1				NT	EN
	タカ	ハチクマ	E, F1				NT	VU
		ツミ	C2, F1, F3					DD
		ハイタカ	E, F1				NT	VU
		オオタカ	E, F1, F3				NT	VU
		サシバ	E, F1, F3				VU	EN
		イヌワシ	E, F3	国天	国内	特別	EN	CR
		クマタカ	E, F1		国内	指定	EN	EN
フクロウ	フクロウ	オオコノハズク	F3					DD
		コノハズク	F1, F2, F3					VU
		アオバズク	F1, F3					EN
		トラフズク	F3					EN
サイチョウ	ヤツガシラ	ヤツガシラ	F1	県天				
ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	E, F1, F3					VU
		ヤマセミ	C2, D, E, F1					VU
	ブッポウソウ	ブッポウソウ	F1	県天		特別	EN	CR

表 4.1.5-14(2) 重要な動物種の確認状況(鳥類)

目名	科名	種名	既存資料	指定状況					
				I	II	III	IV	V	
キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ	F3					NT	
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	E		国内		VU	EN	
スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	E, F1, F3				VU	N	
	カササギヒタキ	サンコウチョウ	E, F1, F3					VU	
	モズ	チゴモズ	E, F1, F3					CR	CR
		アカモズ	F1, F2, F3					EN	EN
	カラス	ルリカケス	F3	国天					
	センニュウ	マキノセンニュウ	F3					NT	
		オオセッカ	F3		国内			EN	
	ヨシキリ	コヨシキリ	E, F1, F3					EN	
	セッカ	セッカ	F1, F3					CR	
	ヒタキ	マミジロ	C2, F3						NT
		ノビタキ	D, F1, F3						NT
	ホオジロ	ホオアカ	F3						NT
		ノジロ	E, F1, F3					NT	NT
コジュリン		F3					VU	CR	
合計 : 15目28科60種			-	7種	5種	4種	35種	51種	

注：各指定状況の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- I / 「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)
 特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:長野県指定天然記念物、
 駒天:駒ヶ根市指定天然記念物、宮天:宮田村指定天然記念物、伊天:伊那市指定天然記念物
- II / 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)
 国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、特一:特定第一種国内希少野生動植物種、特二:特定第二種国内希少野生動植物種、緊急:緊急指定種
- III / 「長野県希少野生動植物保護条例」(平成 15 年 3 月 24 日 条例第 32 号)
 指定:指定希少野生動植物、特別:特別指定希少野生動植物
- IV / 「環境省レッドリスト 2018 の公表について」(平成 30 年 5 月 22 日 環境省自然環境局野生生物課)
 EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、
 VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:地域個体群
- V / 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」(平成 27 年 3 月 長野県環境部自然保護課・他)
 EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、
 VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、N:留意種、LP:地域個体群

表 4.1.5-15 重要な動物種の確認状況(両生類)

目名	科名	種名	既存資料	指定状況				
				I	II	III	IV	V
有尾	サンショウウオ	クロサンショウウオ	F3				NT	NT
	イモリ	アカハライモリ	F2, F3				NT	NT
無尾	アカガエル	ナガレタゴガエル	C1					DD
		ツチガエル	D, E, F3, G3					VU
		ナゴヤダルマガエル	E				EN	CR
		トノサマガエル	C1, F2, F3, G3				NT	NT
合計 : 2目3科6種			-	0種	0種	0種	4種	6種

注：各指定状況の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- I / 「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)
 特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:長野県指定天然記念物、
 駒天:駒ヶ根市指定天然記念物、宮天:宮田村指定天然記念物、伊天:伊那市指定天然記念物
- II / 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)
 国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、特一:特定第一種国内希少野生動植物種、
 特二:特定第二種国内希少野生動植物種、緊急:緊急指定種
- III / 「長野県希少野生動植物保護条例」(平成 15 年 3 月 24 日 条例第 32 号)
 指定:指定希少野生動植物、特別:特別指定希少野生動植物
- IV / 「環境省レッドリスト 2018 の公表について」(平成 30 年 5 月 22 日 環境省自然環境局野生生物課)
 EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、
 VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:地域個体群
- V / 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」(平成 27 年 3 月 長野県環境部自然保護課・他)
 EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、
 VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、N:留意種、LP:地域個体群

表 4.1.5-16 重要な動物種の確認状況(爬虫類)

目名	科名	種名	既存資料	指定状況				
				I	II	III	IV	V
カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	F3				NT	VU
有鱗	ナミヘビ	ヒバカリ	F2, F3					DD
		シロマダラ	F2, F3					DD
合計 : 2目2科3種			-	0種	0種	0種	1種	3種

注：各指定状況の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- I / 「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)
特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:長野県指定天然記念物、
駒天:駒ヶ根市指定天然記念物、宮天:宮田村指定天然記念物、伊天:伊那市指定天然記念物
- II / 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)
国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、特一:特定第一種国内希少野生動植物種、特二:特定第二種国内希少野生動植物種、緊急:緊急指定種
- III / 「長野県希少野生動植物保護条例」(平成 15 年 3 月 24 日 条例第 32 号)
指定:指定希少野生動植物、特別:特別指定希少野生動植物
- IV / 「環境省レッドリスト 2018 の公表について」(平成 30 年 5 月 22 日 環境省自然環境局野生生物課)
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、
VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:地域個体群
- V / 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」(平成 27 年 3 月 長野県環境部自然保護課・他)
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、
VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、N:留意種、LP:地域個体群

表 4.1.5-17 重要な動物種の確認状況(魚類)

目名	科名	種名	既存資料	指定状況				
				I	II	III	IV	V
ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類	C1, E, F1, F2, F3, G3				VU	VU
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	C1, F1, F2, F3				EN	EW
コイ	コイ	【ゲンゴロウブナ】	F1				EN	
		キンブナ	F1				VU	DD
		ヤリタナゴ	C1				NT	CR
		タナゴ	F3				EN	
		ゼニタナゴ	F3				CR	
		ホンモロコ	F3				CR	
	ドジョウ	ドジョウ	C1, E, F1, F3, G1, G3				NT	DD
		トウカイコガタスジシマドジョウ	F1				EN	
ナマズ	アカザ	アカザ	E, F1, F3				VU	NT
サケ	アユ	アユ	C1, D, F1, F2, F3					CR
	サケ	ヤマトイワナ	C1, E, F1, F2, F3					NT
		ニッコウイワナ	E				DD	NT
		サツキマス (アマゴ)	C1, E, F1, F2, F3, G3				NT	NT
		ビワマス	F3				NT	
ダツ	メダカ	ミナミメダカ	F1, F2, F3, G1				VU	VU
カサゴ	カジカ	カジカ大卵型	C1, E, F1, F2, F3				NT	NT
合計 : 7目9科18種			-	0種	0種	0種	16種	12種

注1: 各指定状況の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- I / 「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)
 特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:長野県指定天然記念物、
 駒天:駒ヶ根市指定天然記念物、宮天:宮田村指定天然記念物、伊天:伊那市指定天然記念物
- II / 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)
 国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、特一:特定第一種国内希少野生動植物種、特二:特定第二種国内希少野生動植物種、緊急:緊急指定種
- III / 「長野県希少野生動植物保護条例」(平成 15 年 3 月 24 日 条例第 32 号)
 指定:指定希少野生動植物、特別:特別指定希少野生動植物
- IV / 「環境省レッドリスト 2018 の公表について」(平成 30 年 5 月 22 日 環境省自然環境局野生生物課)
 EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、
 VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:地域個体群
- V / 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」(平成 27 年 3 月 長野県環境部自然保護課・他)
 EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、
 VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、N:留意種、LP:地域個体群

注2: 種名に【 】がある種は、他地域からの移入個体の確認種である。

注3: ビワマスは琵琶湖水系のみに分布するとされているが、伊那市史に在来種として記載があることから、在来種として掲載している。

表 4.1.5-18(1) 重要な動物種の確認状況(昆虫類)

目名	科名	種名	既存資料	指定状況					
				I	II	III	IV	V	
カゲロウ	ヒラタカゲロウ	オビカゲロウ	F1					NT	
トンボ	サナエトンボ	オジロサナエ	F1					VU	
	エゾトンボ	トラフトンボ	F1					NT	
	トンボ	マダラナニワトンボ	F1				EN		
カワゲラ	トワダカワゲラ	ミネトワダカワゲラ	F1					N	
	ヒロムネカワゲラ	ノギカワゲラ	F1					NT	
バッタ	コオロギ	エゾエンマコオロギ	D, E					VU	
	ヒバリモドキ	ハマスズ	E					CR+EN	
	バッタ	セグロイナゴ	F1					VU	
		アカハネバッタ	F1		国内	特別	CR	CR+EN	
ハサミムシ	クロハサミムシ	クロハサミムシ	F1					VU	
	クギヌキハサミムシ	クギヌキハサミムシ	F1					NT	
アザミウマ	アザミウマ	ハネナシアザミウマ	E					DD	
カメムシ	セミ	アカエゾゼミ	F2					VU	
	イトアメンボ	イトアメンボ	F1				VU		
	コオイムシ	コオイムシ	F2, G1					NT	
		オオコオイムシ	E					NT	
		タガメ	F2					VU	EX
	タイコウチ	タイコウチ	D, E, F2					NT	
	カメムシ	ヒメカメムシ	D, F1					NT	
コウチュウ	オサムシ	セアカオサムシ	E, F1				NT	NT	
		オオクロナガオサムシ天竜川個体群	E, F1					LP	
		ミヤマヒサゴゴミムシ	E					NT	
		シンシュウナガゴミムシ	E					NT	
		コシンシュウナガゴミムシ	E					NT	
		キソコマオズナガゴミムシ	E					VU	
		キソナガゴミムシ	E					DD	
		イマフツヤゴモクムシ	E					NT	
		キソツヤゴモクムシ	E					NT	
		クビナガヨツボシゴミムシ	F1					DD	
	ゲンゴロウ	オオヒメゲンゴロウ	F1					NT	
		クロゲンゴロウ	E				NT	NT	
		ゲンゴロウ	E				VU	NT	
		マルガタゲンゴロウ	F1				VU	VU	
	ミズスマシ	ミズスマシ	E, F2				VU	VU	
	ガムシ	ガムシ	E, F1				NT	NT	
	シデムシ	ホンドヒロオビモンシデムシ	E					NT	
		ヤマトモンシデムシ	E, F1				NT	VU	
		ツノグロモンシデムシ	E					NT	
	クワガタムシ	ルリクワガタ	E					NT	
トウカイコルリクワガタ		E					NT		

表 4.1.5-18(2) 重要な動物種の確認状況(昆虫類)

目名	科名	種名	既存資料	指定状況				
				I	II	III	IV	V
コウチュウ	コガネムシ	ゴホンダイコクコガネ	D					VU
		オオクロツヤマグソコガネ	E					VU
		ヒゲブトハナムグリ	E, F1					NT
		オオチャイロハナムグリ	E				NT	VU
		トラハナムグリ	E, F1					VU
		シラホシハナムグリ	F1					VU
		クロカナブン	F1					NT
	タマムシ	ヤマトタマムシ	E					NT
		クロコモンタマムシ	E					VU
	コメツキムシ	ミヤマホソチャバネコメツキ	E					NT
		ババムナビロコメツキ	E					NT
	ホタル	ゲンジボタル	E, F2					NT
		ヘイケボタル	F1, F2					NT
	ジョウカイボン	マサトクビボソジョウカイ	E					NT
		ウツギクビボソジョウカイ	E					VU
		カタキンイロジョウカイ	E, F1					VU
	ジョウカイモドキ	ナガサキアオジョウカイモドキ	E					NT
	テントウムシ	アイヌテントウ	F1					NT
		ダイモンテントウ	E					NT
		ジュウサンホシテントウ	D					NT
		ジュウロクホシテントウ	D, E					NT
	クビナガムシ	カクズクビナガムシ	E, F1					NT
	カミキリモドキ	ミヤマカミキリモドキ	E					VU
	ツチハンミョウ	マルクビツチハンミョウ	F1					NT
	ゴミムシダマン	ツメアカマルチビゴミムシダマン	D					NT
		シナノオオマルムネゴミムシダマン	E					VU
	カミキリムシ	フタスジカタビロハナカミキリ	F3					NT
		トホシハナカミキリ	F3					NT
		オトメクビアカハナカミキリ	F3					VU
		チャイロヒメコブハナカミキリ	F1, F3					NT
		アカムネハナカミキリ	F1				VU	CR+EN
		キベリカタビロハナカミキリ	E, F3					NT
		ベニバハナカミキリ	E, F3					NT
		シナノヒメハナカミキリ	E					NT
		ヨツボシカミキリ	E, F1, F3				EN	VU
		クロツヤヒゲナガコバネカミキリ	F3					NT
		チャイロチビヒラタカミキリ	F3					DD
		クロヒラタカミキリ	F3				NT	NT
		トラフカミキリ	E, F1, F3					NT
		キジマトラカミキリ	F3					NT
		フタスジゴマフカミキリ	E, F1, F3					NT
ヨコヤマヒゲナガカミキリ		F3					NT	
エゾトゲムネカミキリ		F3					NT	
ヤツボシカミキリ		E, F1, F3					VU	

表 4.1.5-18(3) 重要な動物種の確認状況(昆虫類)

目名	科名	種名	既存資料	指定状況				
				I	II	III	IV	V
コウチュウ	ハムシ	ヨツボシアカツツハムシ	D					DD
		オオルリハムシ	F1				NT	VU
ハチ	ハバチ	イトウハバチ	F1				NT	
		ルリコシアカハバチ	F1				DD	
	アリ	トゲアリ	E, F1				VU	NT
	ベッコウバチ	フタモンベッコウ	F1				NT	
	スズメバチ	ホンシュウキオビホオナガズメバチ	E				DD	DD
		モンズズメバチ	E, F1				DD	DD
		キオビクロスズメバチ	E, F1					DD
	ドロバチモドキ	ヤマトスナハキバチ	F1				DD	
	ハキリバチ	クズハキリバチ	F1				DD	DD
シリアゲムシ	シリアゲムシ	スカシシリアゲモドキ	E				VU	
ハエ	アミカモドキ	ニホンアミカモドキ	E				VU	CR+EN
トビケラ	キタガミトビケラ	キタガミトビケラ	F1					N
チョウ	マダラガ	ヤホシホソマダラ	F1				NT	N
		ベニモンマダラ	E, F3				NT	NT
	セセリチョウ	チャマダラセセリ	C1, E, F3				EN	CR
		ギンイチモンジセセリ	E, F3				NT	NT
		タカネキマダラセセリ 南アルプス亜種	F3	県天	国内	指定	CR	VU
		ホシチャバネセセリ	E, F3				EN	EN
		スジグロチャバネセセリ	E, F3				NT	NT
		ヘリグロチャバネセセリ	C1, E, F3					NT
		アカセセリ	E, F3				EN	NT
		ミヤマチャバネセセリ	E, F3					EN
	アゲハチョウ	ヒメギフチョウ	F3				NT	NT
	シロチョウ	ヒメシロチョウ	C1, E, F1, F3				EN	VU
		ツマグロキチョウ	C1, E, F1, F3				EN	EN
		ヤマキチョウ	E, F1, F2, F3				EN	EN
		クモツマキチョウ 八ヶ岳・南アルプス亜種	F3	県天		指定	VU	VU
		ミヤマシロチョウ	F3	県天		特別	EN	EN
	シジミチョウ	ムモンアカシジミ	C1, E, F3					NT
		ウラナミアカシジミ	C1, E, F3, G2					NT
		ウラジロミドリシジミ	F3					NT
		ゴマシジミ本州中部亜種	C1, E, F3		国内	指定	CR	EN
		オオルリシジミ	E, F3			指定	CR	EN
クロツバメシジミ東日本亜種		C1, F1, F3				NT	N	
ヒメシジミ		G2				NT	N	
ミヤマシジミ		C1, E, G2				EN	VU	
アサマシジミ北アルプス亜種		F3	県天		指定	VU	VU	

表 4.1.5-18(4) 重要な動物種の確認状況(昆虫類)

目名	科名	種名	既存資料	指定状況					
				I	II	III	IV	V	
チョウ	タテハチョウ	コヒョウモンモドキ	E, F3				EN	VU	
		ヒョウモンモドキ	F3		国内		CR	CR	
		ヒョウモンチョウ本州中部亜種	F3				VU	NT	
		ウラギンスジヒョウモン	C1, E, F3				VU	NT	
		オオウラギンヒョウモン	F3				CR	CR	
		オオイチモンジ	F3	県天		指定	VU	NT	
		コヒオドシ	E, F3	県天				NT	
		オオムラサキ	C1, F1, F2, F3				NT	N	
	ジャノメチョウ	ベニヒカゲ	C1, F3	県天			NT	N	
		クモマベニヒカゲ	F3	県天			NT	N	
		キマダラモドキ	C1, E, F3				NT	NT	
		オオヒカゲ	C1, E, F1, F3					NT	
		クロヒカゲモドキ	C1, E, F1, F3				EN	EN	
	カレハガ	ヒロバカレハ	E				VU	NT	
	ヤママユガ	オナガミズアオ	F3				NT	N	
	スズメガ	メンガタスズメ	E					DD	
		ヒメスズメ	E, F1, F3				NT	NT	
		スキバホウジャク	E, F1, F3				VU	NT	
		イブキスズメ	E, F3					VU	
	シャチホコガ	クワヤマエグリシャチホコ	E				NT	NT	
		ギンボシシャチホコ	E					NT	
	ヒトリガ	ヒメキシタヒトリ上信山地亜種	E, F3					DD	
	カノコガ	キハダカノコ	F3					NT	
	ヤガ	ムラサキハガタヨトウ	E					DD	
		コシロシタバ	E, F3				NT	DD	
		ミヤマキシタバ	F3				NT	DD	
		ヒメシロシタバ	F1, F3				NT	N	
	合計 : 13目 59科 151種			-	8種	4種	8種	66種	143種

注：各指定状況の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- I / 「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)
 特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:長野県指定天然記念物、
 駒天:駒ヶ根市指定天然記念物、宮天:宮田村指定天然記念物、伊天:伊那市指定天然記念物
- II / 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)
 国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、特一:特定第一種国内希少野生動植物種、特二:特定第二種国内希少野生動植物種、緊急:緊急指定種
- III / 「長野県希少野生動植物保護条例」(平成 15 年 3 月 24 日 条例第 32 号)
 指定:指定希少野生動植物、特別:特別指定希少野生動植物
- IV / 「環境省レッドリスト 2018 の公表について」(平成 30 年 5 月 22 日 環境省自然環境局野生生物課)
 EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、
 VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:地域個体群
- V / 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」(平成 27 年 3 月 長野県環境部自然保護課・他)
 EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、
 VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、N:留意種、LP:地域個体群

表 4.1.5-19 重要な動物種の確認状況(底生動物)

目名	科名	種名	既存資料	指定状況				
				I	II	III	IV	V
ニナ(中腹足)	タニシ	オオタニシ	E				NT	NT
モノアラガイ(基眼)	ヒラマキガイ(+インドヒラマキガイ)	ヒラマキガイモドキ	E				NT	NT
カゲロウ	ヒラタカゲロウ	オビカゲロウ	F1					NT
トンボ	サナエトンボ	オジロサナエ	F1					VU
	エゾトンボ	トラフトンボ	F1					NT
	トンボ	マダラナニワトンボ	F1				EN	
カワゲラ	トワダカワゲラ	ミネトワダカワゲラ	F1					N
	ヒロムネカワゲラ	ノギカワゲラ	F1					NT
カメムシ	イトアメンボ	イトアメンボ	F1				VU	
	コオイムシ	オオコオイムシ	E					NT
		コオイムシ	F2, G1, G3					NT
		タガメ	F2				VU	EX
タイコウチ	タイコウチ	D, E, F2, G3					NT	
コウチュウ	ゲンゴロウ	オオヒメゲンゴロウ	F1					NT
		クロゲンゴロウ	E				NT	NT
		ゲンゴロウ	E				VU	NT
		マルガタゲンゴロウ	F1				VU	VU
	ミズスマシ	ミズスマシ	E, F2, G3				VU	VU
	ガムシ	ガムシ	E, F1, G3				NT	NT
	ホタル	ゲンジボタル	E, F2					NT
		ヘイケボタル	F1, F2					NT
ハエ	アミカモドキ	ニホンアミカモドキ	E				VU	CR+EN
トビケラ	キタガミトビケラ	キタガミトビケラ	F1					N
合計 : 9目17科23種			-	0種	0種	0種	12種	20種

注:各指定状況の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- I / 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:長野県指定天然記念物、
駒天:駒ヶ根市指定天然記念物、宮天:宮田村指定天然記念物、伊天:伊那市指定天然記念物
- II / 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、特一:特定第一種国内希少野生動植物種、特二:特定第二種国内希少野生動植物種、緊急:緊急指定種
- III / 「長野県希少野生動植物保護条例」(平成15年3月24日 条例第32号)
指定:指定希少野生動植物、特別:特別指定希少野生動植物
- IV / 「環境省レッドリスト2018の公表について」(平成30年5月22日 環境省自然環境局野生生物課)
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧IB類、
VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:地域個体群
- V / 「長野県版レッドリスト 動物編2015」(平成27年3月 長野県環境部自然保護課・他)
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧IB類、
VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、N:留意種、LP:地域個体群

表 4.1.5-20 重要な動物種の確認状況(陸産貝類)

目名	科名	種名	既存資料	指定状況				
				I	II	III	IV	V
ニナ(中腹足)	ゴマガイ	ヒダゴマガイ	C1					VU
マイマイ(柄眼)	ベッコウマイマイ	トガリキビ	E				DD	NT
		オオタキキビ	E				NT	NT
	ニッポンマイマイ (ナンバンマイマイ)	ヤマタカマイマイ	E				NT	NT
合計 : 2目3科4種			-	0種	0種	0種	3種	4種

注：各指定状況の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- I / 「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)
 特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:長野県指定天然記念物、
 駒天:駒ヶ根市指定天然記念物、宮天:宮田村指定天然記念物、伊天:伊那市指定天然記念物
- II / 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)
 国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、特一:特定第一種国内希少野生動植物種、特二:特定第二種国内希少野生動植物種、緊急:緊急指定種
- III / 「長野県希少野生動植物保護条例」(平成 15 年 3 月 24 日 条例第 32 号)
 指定:指定希少野生動植物、特別:特別指定希少野生動植物
- IV / 「環境省レッドリスト 2018 の公表について」(平成 30 年 5 月 22 日 環境省自然環境局野生生物課)
 EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、
 VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:地域個体群
- V / 「長野県版レッドリスト 動物編 2015」(平成 27 年 3 月 長野県環境部自然保護課・他)
 EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、
 VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、N:留意種、LP:地域個体群

b) 重要な生息地

調査区域で確認された生息地のうち重要な生息地は、『ハッチョウトンボ』の生息の保護区が1箇所、『ミヤマシジミ』の保全研究箇所が9箇所ある。なお、昆虫類以外の動物種の重要な生息地は確認されていない。確認された生息地のうち重要な生息地を表4.1.5-21に示す。

表 4.1.5-21 重要な生息地の確認状況

種別	分類	種名	箇所数	既存資料	指定状況			
					I	II	VI	VII
希少種の生息のための保護又は保全研究の場所	昆虫類	ハッチョウトンボ (トンボ目トンボ科)	1箇所	F1, G1				●
		ミヤマシジミ (チョウ目シジミチョウ科)	9箇所	G2				●
合計			10箇所	-	0件	0件	0件	2件

注：各指定状況の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- I / 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:長野県指定天然記念物、
駒天:駒ヶ根市指定天然記念物、宮天:宮田村指定天然記念物、伊天:伊那市指定天然記念物
- II / 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
○:生息地等保護区
- VI / 「第4回自然環境保全基礎調査 長野県自然環境情報図」(平成7年 環境庁自然保護局自然環境調査室)
繁殖:集団繁殖地、ねぐら:集団ねぐら
- VII / 「ハッチョウトンボを育む会ホームページ」(平成30年7月確認 ハッチョウトンボを育む会)
及び「ミヤマシジミ研究会パンフレット」(平成30年7月確認 ミヤマシジミ研究会)
●:希少種の生息のための保護又は保全研究の場所

2) 植物の状況

(1) 植生及び植物相の状況

調査区域において生育が想定される重要な群落及び植物種等について把握するため、地域の植物の生育情報について既存資料の整理を行った。植生及び植物相の情報を収集した既存資料は9件である。各項目で使用した既存資料を表4.1.5-22に示す。

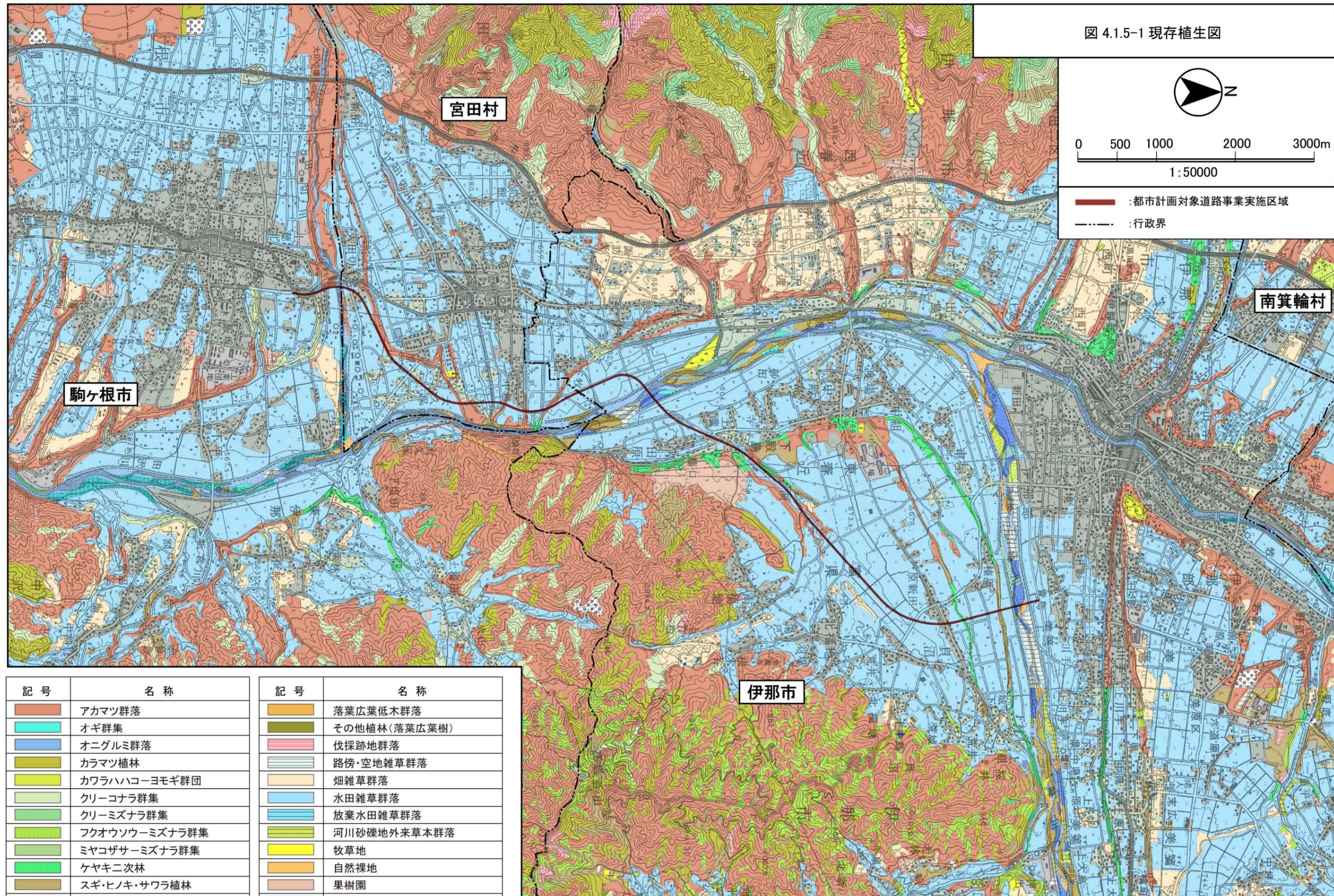
表 4.1.5-22 植生及び植物相の情報を収集した既存資料

No.	項目 既存資料	植生		植物相	
		植生	巨樹・巨木林	維管束植物	非維管束植物
A	天然記念物 「駒ヶ根市指定文化財一覧」(平成29年7月現在 駒ヶ根市社会教育課)、「宮田村の文化財一覧表」(平成元年2月現在 宮田村インターネット博物館)及び「伊那市の指定文化財一覧表」(平成28年8月現在 伊那市教育委員会生涯学習課文化財係)	●	●		
B	「第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査 縮尺1/2.5万植生図【伊那、高遠、伊那宮田、信濃溝口、赤穂】」(平成15・25年作成 環境省自然環境局生物多様性センター)	●			
C	「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査 調査結果」(環境省自然環境局生物多様性センター)	●			
D	「植物群落レッドデータ・ブック」(平成8年4月15日 (財)日本自然保護協会・他)	●			
E	「第4回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査 調査結果」(環境省自然環境局生物多様性センター)及び「第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査 調査結果」(環境省自然環境局生物多様性センター)並びに「第4回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹・巨木林 甲信越・北陸版」(平成3年5月 環境庁)		●		
F	1 「平成18年度 河川水辺の国勢調査 植物調査 天竜川」(河川環境データベース)			●	
	2 「平成18年度及び平成23年度 河川水辺の国勢調査 河川環境基図作成調査 天竜川」(河川環境データベース)			●	
G	1 「長野県版レッドデータブック 維管束植物編」(平成14年3月、長野県生活環境部環境自然保護課・他)			●	
	2 「長野県版レッドデータブック 非維管束植物編・植物群落編」(平成17年3月 長野県生活環境部自然保護課・他)				●
	3 「長野県版レッドリスト 植物編 2014」(平成26年3月 長野県環境部自然保護課・他)	●		●	●
H	1 「駒ヶ根市誌 自然編Ⅱ [駒ヶ根市の自然]」(平成19年 駒ヶ根市誌編纂委員会)			●	●
	2 「宮田村誌 上巻」(昭和57年 宮田村誌編纂委員会)			●	●
	3 「伊那市史 自然編」(昭和56年 伊那市史編纂委員会)			●	●
I	「ハッチョウトンボを育む会ホームページ」(平成30年7月確認 ハッチョウトンボを育む会)			●	●

(2) 植生の状況

調査区域は、天竜川を中心に河岸段丘上に平地が開けており、その背後に山地が分布する。河岸段丘上の平地は水田雑草群落が多く分布し、畑地雑草群落、市街地の大きなまとまりが散在する。山地部は、アカマツ群落が多く分布するほか、カラマツ植林、クリ-ミズナラ群落などの樹林地が見られる。天竜川や三峰川などの大きな河川は、ヤナギ低木群落、ヤナギ高木林の小さなまとまりが数多く見られるほか、ヨシク拉斯の植生が帯状に成立している。また、天竜川やそれに注ぐ支流河川の河岸段丘の斜面、台地の縁の河岸段丘の斜面では、アカマツ群落、カスミザクラ-コナラ群落の樹林地が帯状に分布する。植生の状況を図 4. 1. 5-1 (P4-75) に示す。

図 4.1.5-1 現存植生図



記号	名称
	アカマツ群落
	オギ群落
	オニグルミ群落
	カラマツ植林
	カワラハハコ-ヨモギ群団
	クレーコナラ群落
	クレーミズナラ群落
	フクオウソウ-ミズナラ群落
	ミヤコザサ-ミズナラ群落
	ケヤキ二次林
	スギ・ヒノキ・サワラ植林
	スキ群団
	竹林
	モウソウチク林
	ツルヨシ群落
	ニセアカシア群落
	ハンノキ群落
	ヤナギ高木群落
	ヤナギ低木群落

記号	名称
	落葉広葉低木群落
	その他植林(落葉広葉樹)
	伐採跡地群落
	路傍・空地雑草群落
	畑雑草群落
	水田雑草群落
	放棄水田雑草群落
	河川砂礫地外来草本群落
	牧草地
	自然裸地
	果樹園
	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
	ゴルフ場・芝地
	市街地
	緑の多い住宅地
	工場地帯
	造成地
	開放水域

出典:「第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査 縮尺1/2.5万植生図【伊那、高遠、伊那宮田、信濃溝口、赤穂】」
(平成15・25年作成 環境省自然環境局生物多様性センター)

(3) 植物相の状況

a) 維管束植物

調査区域において 150 科 1,521 種の維管束植物が確認されている。各既存資料での確認状況を表 4.1.5-23 に示す。

表 4.1.5-23 維管束植物の確認状況

No.	既存資料	確認種数	確認種
F	「平成 18 年度 河川水辺の国勢調査 植物調査 天竜川」 「平成 18 年度及び平成 23 年度 河川水辺の国勢調査 河川環境基図作成調査 天竜川」 植物調査及び河川環境基図作成調査の陸域調査の調査地区のうち、調査区域の中に係る地区及び地点での確認情報	454 種	トクサ、コウヤワラビ、アカマツ、カワヤナギ、カナムグラ、オオイヌタデ、カワラナデシコ、ケキツネノボタン、アケビ、タネツケバナ、ノイバラ、コマツナギ、マルバヤハズソウ、クズ、ハリエンジュ、ヌルデ、アキグミ、ヒメオドリコソウ、カワラヨモギ、ヨモギ、オオアレチノギク、ヤブカンゾウ、ツユクサ、イヌビエ、オギ、エノコログサ、イヌホタルイ、ネジバナ など
G	「長野県版レッドデータブック 維管束植物編」 「長野県版レッドリスト 植物編 2014」 駒ヶ根市、宮田村、伊那市（市町村合併前の伊那市）において確認される可能性がある種	156 種	イヌスギナ、イワオモダカ、タガソデソウ、ミチノクフクジュソウ、イチリンソウ、オウレン、ヨゴレネコノメ、アカヤシオ、センブリ、メハジキ、アゼトウガラシ、イヌタヌキモ、キキョウ、カワラニガナ、ミズオオバコ、ササユリ、ウシクサ、ヒメヒラテンツキ、ギンラン、サギソウ など
H1	「駒ヶ根市誌 自然編Ⅱ [駒ヶ根市の自然]」 駒ヶ根市において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	1,186 種	ゼンマイ、オシダ、カラマツ、スギ、オニグルミ、コナラ、イタドリ、コハコベ、ニリンソウ、サルナシ、ミヤマキケマン、ウツギ、ヤマブキ、カタバミ、オオモミジ、ツリバナ、タチツボスミレ、アマチャヅル、ハナイカダ、イチヤクソウ、ミツバツツジ、エゴノキ、ホトケノザ、ツリガネニンジン、オヤマボクチ、オモダカ、ヒルムシロ、コオニユリ、ヤマカモジグサ、ネズミムギ、カンスゲ、ホタルイ、クモキリソウ など
H2	「宮田市誌 上巻」 宮田村において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	274 種	スギナ、クサソテツ、コメツガ、シラカンバ、クリ、エノキ、ミゾソバ、ウシハコベ、ウマノアシガタ、ドクダミ、ヤグルマソウ、シロツメクサ、ツリフネソウ、スミレ、ヤマツツジ、フデリンドウ、オオイヌノフグリ、オミナエシ、アマドコロ、オヒシバ、ヤダケ、マツバイ、カタクリ、シュンラン など
H3	「伊那市史 自然編」 伊那市（市町村合併前の伊那市）において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種、商品栽培植物は除く)	741 種	ワラビ、モミ、ヒノキ、クヌギ、ギシギシ、ノミノフスマ、バイカモ、クサノオウ、ノリウツギ、ウワミズザクラ、モミジイチゴ、ヤマハギ、ツボスミレ、オオマツヨイグサ、マルバアオダモ、ヘクソカズラ、アキノタムラソウ、ガマズミ、アキノキリンソウ、ヘラオモダカ、ウバユリ、キツネノカミソリ、コナギ、カモジグサ、ツルヨシ、マダケ、ショウブ、アゼガヤツリ など
I	「ハッチョウトンボを育む会ホームページ」 駒ヶ根市南割公園での確認種	2 種	モウセンゴケ、ミズオオバコ

b) 非維管束植物

調査区域において確認された非維管束植物は、蘚苔類が 11 目 14 科 54 種、藻類が 6 目 10 科 17 種、地衣類が 3 目 8 科 14 種、菌類が 2 目 12 科 26 種であり、合計 22 目 44 科 111 種の非維管束植物が確認されている。各既存資料での確認状況を表 4.1.5-24 に示す。

表 4.1.5-24 非維管束植物の確認状況

No.	既存資料	確認種数	確認種
G	「長野県版レッドデータブック 非維管束植物編・植物群落編」 「長野県版レッドリスト 植物編 2014」 駒ヶ根市、宮田村、伊那市（市町村合併前の伊那市）において確認される可能性がある種	49 種	蘚苔類：シナノミズゴケ、スギバミズゴケ、ハリミズゴケ、ホソバミズゴケ、ミネミズゴケ、ムラサキミズゴケ、オオミズゴケ、サンカクミズゴケ、サケバミズゴケ、ミヤマミズゴケ、ワラミズゴケ、ワタミズゴケ、ヒナミズゴケ、ジョウレンホウオウゴケ、ヒメコガネハイゴケ など 地衣類：オーアケシゴケ、ヒメカイガラゴケ、シナノカラタチゴケ、ヒメトサカゴケ、テリハヨロイゴケ、アツバヨロイゴケ、ヒメツメゴケ、ヒラミヤイトゴケ、タカネイワタケ
H1	「駒ヶ根市誌 自然編Ⅱ [駒ヶ根市の自然]」 駒ヶ根市において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	16 種	藻類：マユケイソウ、ハネケイソウ、エレモスフェラ、アオミドロ、ネトリウム、ミカツキモ、ツツミモ など
H2	「宮田村誌 上巻」 宮田村において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種は除く)	27 種	地衣類：イワタケ 菌類：クロカワ、ブクリョウ、シイタケ、ナラタケ、キシメジ、マツタケ、タマゴタケ、ニガクリタケ、クリタケ、アブラシメジ、チチタケ、アミタケ など
H3	「伊那市史 自然編」 伊那市（市町村合併前の伊那市）において確認される可能性がある種(但し、亜高山帯以上の地域の確認種、商品栽培植物は除く)	22 種	蘚苔類：オオミズゴケ、ウロコミズゴケ、タチゴケ、コスギゴケ、オオシッポゴケ、ホソバオキナゴケ、ヒカリゴケ、エゾキンモウゴケ、タニゴケ、ハイゴケ など 藻類：クンショウモ、アオミドロ 地衣類：ハナゴケ、カラクサゴケ、ウメノキゴケ、サルオガセ類の一種
I	「ハッチョウトンボを育む会ホームページ」 駒ヶ根市南割公園での確認種	1 種	藻類：クチビルケイソウ

(4) 重要な植物群落及び植物種等の状況

重要な植物群落及び植物種等の選定根拠を表 4.1.5-25 (P4-78) に、選定基準を表 4.1.5-26 (P4-79～80) に示す。

表 4.1.5-25 重要な植物群落及び植物種等の選定根拠

		法令、文献等	選定根拠
法令による指定	I	「文化財保護法」 (昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)	・特別天然記念物 ・国指定天然記念物
		「長野県文化財保護条例」 (昭和 50 年 12 月 25 日 条例第 44 号)	・県指定天然記念物
		「駒ヶ根市文化財保護条例」 (昭和 52 年 3 月 25 日 条例第 16 号) 「宮田村文化財保護条例」 (昭和 52 年 12 月 21 日 条例第 26 号) 「伊那市文化財保護条例」 (平成 18 年 3 月 31 日 条例第 201 号)	・市村指定天然記念物
II	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)	・国内希少野生動植物種 ・国際希少野生動植物種 ・特定第一種国内希少野生動植物種 ・特定第二種国内希少野生動植物種 ・緊急指定種 ・生息地等保護区	
III	「長野県希少野生動植物保護条例」 (平成 15 年 3 月 24 日 条例第 32 号)	・指定希少野生動植物 ・特別指定希少野生動植物	
文献による指定	IV	「第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」 (平成 12 年 3 月 環境庁自然環境局生物多様性センター)	・特定植物群落
	V	「植物群落レッドデータ・ブック」 (平成 8 年 4 月 15 日 (財) 日本自然保護協会・他)	・ランク 1 (R1) ・ランク 2 (R2) ・ランク 3 (R3) ・ランク 4 (R4)
	VI	「第 4 回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹・巨木林 甲信越・北陸版」 (平成 3 年 5 月 環境庁) 「第 6 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書」 (平成 13 年 3 月 環境省自然環境局生物多様性センター)	・巨樹 (単木) ・巨木林 (樹林・並木)
	VII	「環境省レッドリスト 2018 の公表について」 (平成 30 年 5 月 22 日 環境省自然環境局野生生物課)	・絶滅 (EX) ・野生絶滅 (EW) ・絶滅危惧 I 類 (CR+EN) ・絶滅危惧 I A 類 (CR) ・絶滅危惧 I B 類 (EN) ・絶滅危惧 II 類 (VU) ・準絶滅危惧 (NT) ・情報不足 (DD) ・地域個体群 (LP)
	VIII	「長野県版レッドリスト 植物編 2014」 (平成 26 年 3 月 長野県環境部自然保護課・他)	<植物種> ・絶滅 (EX) ・野生絶滅 (EW) ・絶滅危惧 I 類 (CR+EN) ・絶滅危惧 I A 類 (CR) ・絶滅危惧 I B 類 (EN) ・絶滅危惧 II 類 (VU) ・準絶滅危惧 (NT) ・情報不足 (DD) ・地域個体群 (LP) ・留意種 (N) <植物群落> ・Aランク ・Bランク ・Cランク

表 4.1.5-26(1) 重要な植物群落及び植物種等の選定基準

区分		選定基準
I	特別天然記念物	国指定天然記念物のうち特に重要な記念物について指定する。
	国指定天然記念物	国指定文化財の記念物うち、動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）及び植物（自生地を含む。）で我が国にとって学術上価値の高いもの。
	県指定天然記念物	県指定文化財の記念物うち、動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）及び植物（自生地を含む。）で、県にとって学術上価値の高いもの。
	市村指定天然記念物	市町指定文化財の記念物うち、動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）で、市村にとって学術上価値の高いもの。
II	国内希少野生動植物種	その個体が本邦に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種であって、政令で定めるもの。
	国際希少野生動植物種	国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種（国内希少野生動植物種を除く。）であって、政令で定めるもの。
	特定第一種 国内希少野生動植物種	次に掲げる要件のいずれにも該当する国内希少野生動植物種であって、政令で定めるものをいう。 一 商業的に個体の繁殖をさせることができるものであること。 二 国際的に協力して種の保存を図ることとされているものでないこと。
	特定第二種 国内希少野生動植物種	次に掲げる要件のいずれにも該当する国内希少野生動植物種であって、政令で定めるものをいう。 一 種の個体の主要な生息地若しくは生育地が消滅しつつあるものであること又はその種の個体の生息若しくは生育の環境が著しく悪化しつつあるものであること。 二 種の存続に支障を来す程度にその種の個体の数が著しく少ないものでないこと。 三 繁殖による個体の数の増加の割合が低いものでないこと。 四 国際的に協力して種の保存を図ることとされているものでないこと。
	緊急指定種	環境大臣が、国内希少野生動植物種及び国際希少野生動植物種以外の野生動植物の種の保存を特に緊急に図る必要があると認めるときに指定する種。（指定公示日の2日後から3年間）
	生息地等保護区	国内希少野生動植物種に指定されている種のうち、その生息・生育環境の保全を図る必要があると認める地区であって、政令で定めるもの。
III	指定希少野生動植物	希少野生動植物のうち、特に保護を図る必要があるもの。 <補 足> 希少野生動植物とは、県内に生息し、又は生育する野生動植物の種又は地域個体群であって、次の各号のいずれかに該当するものをいう。 (1) その存続に支障を来す程度にその個体の数が著しく少ないもの (2) その個体の数が減少しつつあるもの (3) その個体の生息地又は生育地が消滅しつつあるもの (4) その個体の生息又は生育の環境が悪化しつつあるもの (5) 前各号に掲げるもののほか、その存続に支障を来す事情があるもの
	特別指定希少野生動植物	指定希少野生動植物のうち、特に緊急に保護を図る必要があるもの。
IV	特定植物群落	原生林、湿原植物群落、高山植物群落、社寺林、武蔵野の雑木林のように郷土景観を代表する植物群落など、学術上重要な群落、保護を要する群落等。以下の選定基準に該当する群落。 <選定基準> A：原生林若しくはそれに近い自然林 B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 H：その他、学術上重要な植物群落または個体群

表 4.1.5-26(2) 重要な植物群落及び植物種等の選定基準

区分		選定基準		
V	ランク 1 (R1)	緊急に対策必要。緊急に対策を講じなければ群落が壊滅する。		
	ランク 2 (R2)	対策必要。対策を講じなければ群落の状態が徐々に悪化する。		
	ランク 3 (R3)	破壊の危惧。現在は保護対策の功を奏しているが、将来は破壊の危惧が大きい。		
	ランク 4 (R4)	要注意。当面、新たな保護対策は必要としない（監視必要）。		
VII	絶滅 (EX)	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。		
	野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種。		
	絶滅危惧	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種。	
		絶滅危惧 I A 類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。	
		絶滅危惧 I B 類 (EN)	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。	
		絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅の危険が増大している種。	
	準絶滅危惧 (NT)	存続基盤が脆弱な種。		
	情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種。		
	地域個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。		
VIII	植物種	絶滅 (EX)	長野県内において絶滅したと考えられる種。	
		野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種。	
		絶滅危惧	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	長野県内において絶滅の危機に瀕している種。
			絶滅危惧 I A 類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
			絶滅危惧 I B 類 (EN)	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
			絶滅危惧 II 類 (VU)	長野県内において絶滅の危険が増大している種。
		準絶滅危惧 (NT)	長野県内において存続基盤が脆弱な種。	
		情報不足 (DD)	長野県内において評価するだけの情報が不足している種。	
		地域個体群 (LP)	長野県内において地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。	
	留意種 (N)	長野県内において絶滅危惧の対象種ではないが、特殊な事情を有するため、留意すべき種。		
	植物群落	総合評価 A ランク (総 A)	植物群落保護上の重要性がきわめて高いもの。	
総合評価 B ランク (総 B)	植物群落保護上の重要性が高いもの。			
総合評価 C ランク (総 C)	植物群落保護の必要性が考えられるもの。			

a) 重要な植物群落等

調査区域で確認された重要な植物群落等は 28 件であり、その内訳は天然記念物が 14 件（県指定：2 件、駒ヶ根市指定：2 件、宮田村指定：3 件、伊那市指定：7 件）、巨樹が 13 件（駒ヶ根市：7 件、宮田村：3 件、伊那市：3 件）、巨木林が 9 件（駒ヶ根市：3 件、伊那市：6 件）、重要な植物群落が 1 件であった。調査区域における重要な植物群落等の確認状況を表 4.1.5-27 (P4-81~82) 及び図 4.1.5-2 (P4-83) に示す。

表 4.1.5-27(1)重要な植物群落等の確認状況

所在市区町村	番号	樹種名・名称	既存資料	指定状況						所在地
				I	II	IV	V	VI	VIII	
駒ヶ根市	1	アカマツ【火山峠芭蕉の松】	A, E	駒天				●		火山
	2	アカマツ【高鳥谷神社社叢】	A, C, D, E	駒天		特 ^E 特 ^F	R2	▲		火山 高鳥谷神社
		サワラ【高鳥谷神社社叢】								
		サワラ【高鳥谷神社社叢】								
		スギ【高鳥谷神社社叢】								
		高鳥谷神社のアカマツ林【高鳥谷神社社叢】								
	3	サワラ	E					●	南割 円通寺跡	
	4	スギ【御蔭杉】	E					●	市場割 大御食神社	
	5	コウヤマキ【長春寺のコウヤマキ】	A, E	駒天				●	下平 長春寺	
	6	ヒノキ	E					●	中沢中割 蔵沢寺	
	7	ケヤキ	E					●	伊那耕地 伊那森神社	
	8	モミ	E					●	火山 天白社	
	9	モミ	E					▲		中沢中割 香花社
		ヒノキ								
スギ										
10	サワラ	E					▲		大久保 筥石神社	
	サワラ									
	サワラ									
宮田村	11	クリ【新田の栗の木】	A, E	宮天				●	新田	
	12	カヤ【北割の榎の木】	A, E	宮天				●	北割	
	13	カヤ【中越の榎の木】	A, E	宮天				●	中越	
伊那市	14	マツハダ【高鳥谷のマツハダ】	A	伊天						富県南福地
	15	タマサキフジ【名称無し】	A	伊天						富県南福地
	16	シダレザクラ【薬師堂のシダレザクラ】	A	伊天						富県北新
	17	ヤエヤマツツジ【名称無し】	A	伊天						富県北福地 富県小学校
	18	シダレザクラ【伯先桜】	A	伊天						伊那西町伊那部
	19	ケヤキ【山寺の白山社八幡社合殿のケヤキ】	A	伊天						伊那山寺
	20	クリ【白沢のクリ】	A, E	駒天				●		白沢
	21	ケヤキ【神明社荒神社合殿のケヤキ】	A, E	伊天				▲		狐島 神明社荒神社合殿
		ケヤキ【神明社荒神社合殿のケヤキ】								
		ケヤキ【神明社荒神社合殿のケヤキ】								
	22	コウヤマキ	E					●		西春近 上村荒神
	23	コウヤマキ【水月庵のコウヤマキ】	E					●		西春近 山本会所
	24	ケヤキ	E					▲		東春近中殿島 春近神社
		ケヤキ								
スギ										
ケヤキ										

表 4.1.5-27(2)重要な植物群落等の確認状況

所在 市区町村	番号	樹種名・名称	既存資料	指定状況						所在地
				I	II	IV	V	VI	VIII	
伊那市	25	スギ	E							西春近 諏訪神社
		スギ					▲			
		スギ								
		スギ								
	26	モミ	E							西春近 白山神社
		モミ					▲			
		モミ								
		モミ								
	27	ケヤキ	E							下川手
		ケヤキ					▲			
		ケヤキ								
	28	スギ	E							山寺 常円寺
スギ						▲				
合計			-	14件	0件	1件	1件	22件	0件	-

注1：樹種名の後の【 】内は、天然記念物等の名称を意味する。

注2：各指定状況の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

I / 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)

特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:長野県指定天然記念物、
駒天:駒ヶ根市指定天然記念物、宮天:宮田村指定天然記念物、伊天:伊那市指定天然記念物

II / 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)

○:生息地等保護区

IV / 「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(平成12年3月 環境庁自然環境局
生物多様性センター)

特A:原生林若しくはそれに近い自然林、特B:国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落
または個体群、特C:比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界
になる産地に見られる植物群落または個体群、特D:砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿
地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的
なもの、特E:郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの、特F:過
去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入
っていないもの、特G:乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるお
それのある植物群落または個体群、特H:その他、学術上重要な植物群落または個体群

V / 「植物群落レッドデータブック」(平成8年4月15日 (財)日本自然保護協会・他)

R1:要注意、R2:破壊的な危惧、R3:対策必要、R4:緊急に対策が必要

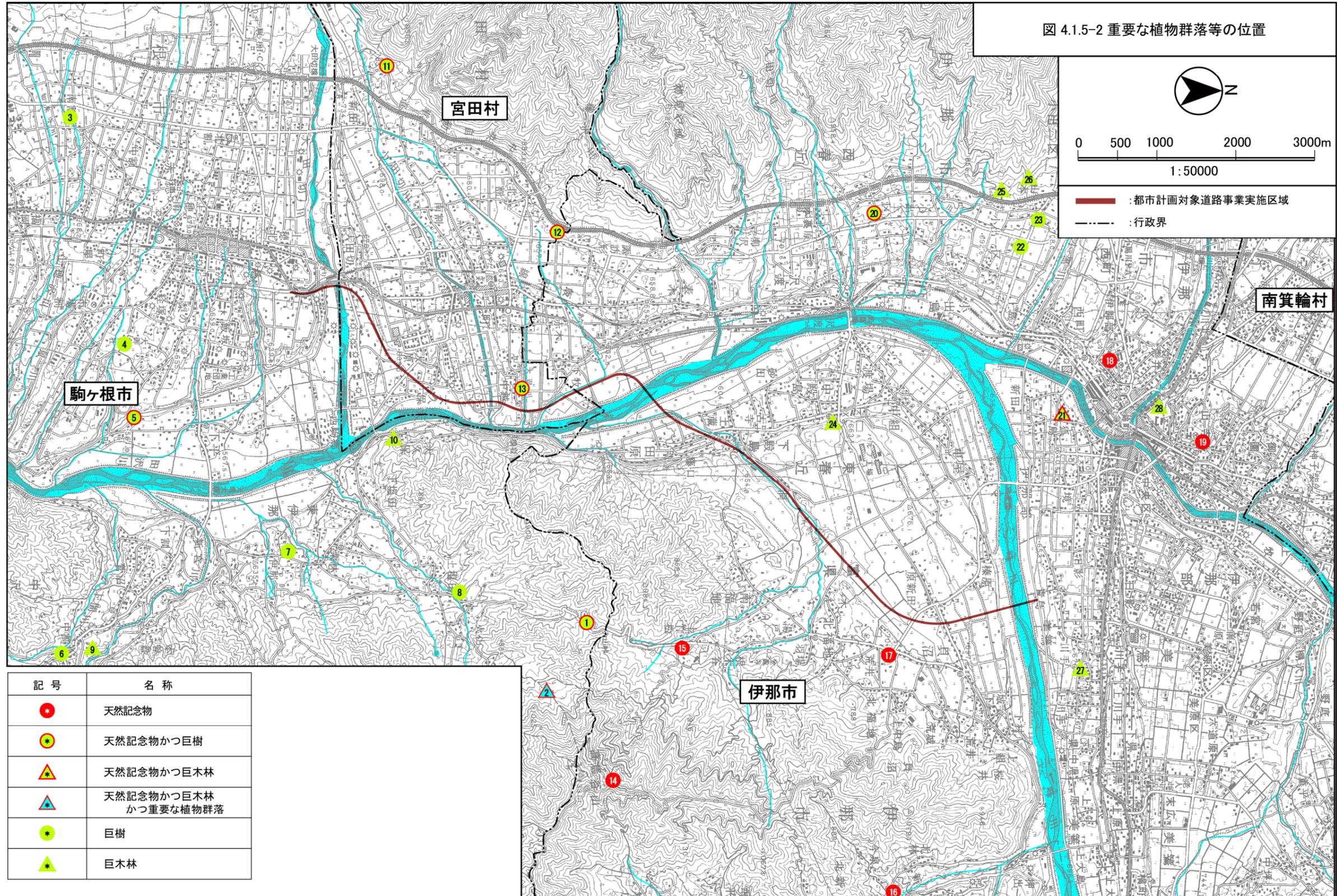
VI / 「第4回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹・巨木林 甲信越・北陸版」(平成3年5月 環境庁)
及び「第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書」(平成13年3月
環境省自然環境局生物多様性センター)

●:巨樹、▲:巨木林

VIII / 「長野県版レッドリスト 植物編 2014」(平成26年3月 長野県環境部自然保護課・他)

総A:保護上の重要性がきわめて高い、総B:保護上の重要性が高い、総C:保護の必要性が考えら
れる。

図 4.1.5-2 重要な植物群落等の位置



出典:「駒ヶ根市指定文化財一覧」(平成29年7月現在 駒ヶ根市社会教育課)
 「宮田村の文化財一覧表」(平成元年2月現在 宮田村インターネット博物館)
 「伊那市の指定文化財一覧表」(平成28年8月現在 伊那市教育委員会生涯学習課文化財係)
 「第4回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹・巨木林 甲信越・北陸版」(平成3年5月 環境庁)
 「第4回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査 調査結果」(環境省自然環境局生物多様性センター)
 「第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査 調査結果」(環境省自然環境局生物多様性センター)
 「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査 調査結果」(環境省自然環境局生物多様性センター)
 「植物群落レッドデータブック」(平成8年4月15日 (財)日本自然保護協会・他)

b) 重要な植物種（維管束植物）

調査区域における維管束植物の重要な植物種は、61科 194種の確認記録があった。維管束植物の確認種のうち、重要な植物種の該当種を表 4.1.5-28（P4-84～88）に示す。

表 4.1.5-28(1) 重要な植物種の確認状況（維管束植物）

分類	科名	種名	既存資料	指定状況				
				I	II	III	VII	VIII
シダ植物	ヒカゲノカズラ	チシマヒカゲノカズラ	G				EN	EN
	トクサ	イヌスギナ	G					NT
	ハナヤスリ	ヒメハナワラビ	G				VU	NT
		ハマハナヤスリ	F					DD
	チャセンシダ	イチョウシダ	G				NT	NT
	ウラボシ	クラガリシダ	G, H1				EN	VU
		イワオモダカ	G, H1					VU
	サンショウモ	サンショウモ	H3				VU	VU
アカウキクサ	オオアカウキクサ	H3				EN	EN	
裸子植物	マツ	イラモミ	G					NT
被子植物 双子葉植物 離弁花類	ヤナギ	コマイワヤナギ	G				VU	NT
	ヤドリギ	マツグミ	G					NT
	ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ	G, H1				VU	NT
	タデ	ウナギツカミ	H3					DD
		ヤナギヌカボ	G				VU	EN
		ノダイオウ	H1				VU	N
	ヤマゴボウ	マルミノヤマゴボウ	H1					VU
	ナデシコ	タガソデソウ	G, H1, H3				VU	NT
		エンビセンノウ	G			指定	VU	EN
		オオビランジ	G				NT	VU
		シコタンハコベ	G				VU	NT
	アカザ	ミドリアカザ	G				CR	NT
	キンボウゲ	キタザワブシ	G				VU	NT
		タカネトリカブト	G				VU	EN
		ミチノクフクジュソウ	G, H1				NT	N
		フクジュソウ	G, H3					NT
		イチリンソウ	G, H1, H2					NT
		レンゲショウマ	G					NT
		エンコウソウ	G, H1, H3					VU
		オウレン	G, H2, H3					EN
		トウゴクサバノオ	G					EN
		チチブシロカネソウ	G					NT
		オキナグサ	H2			指定	VU	EN
シキンカラマツ		G					NT	
キンバイソウ		G					NT	

表 4.1.5-28(2) 重要な植物種の確認状況(維管束植物)

分類	科名	種名	既存資料	指定状況					
				I	II	III	VII	VIII	
被子植物	双子葉植物 離弁花類	メギ	オオバメギ	G					NT
		ボタン	ヤマシャクヤク	G, H1			指定	NT	VU
		オトギリソウ	アゼオトギリ	G				EN	CR
		ケシ	ツルキケマン	G				EN	EN
			ナガミノツルキケマン	G, H1				NT	
		アブラナ	クモマナズナ	G				VU	NT
			ハクセンナズナ	G					VU
		ベンケイソウ	ツメレンゲ	G, H1				NT	NT
		ユキノシタ	ボタンネコノメソウ	G					NT
			ヨゴレネコノメ	G					NT
		バラ	マメザクラ	G					NT
			ミチノクナン	H3				EN	
			アオナシ	H3				VU	N
			サナギイチゴ	H1				VU	N
			タテヤマキンバイ	G					NT
		マメ	モメンヅル	G					NT
			タヌキマメ	G, H1			指定		CR
			サイカチ	F, G, H1, H3					NT
			レンリソウ	G, H1					NT
			イヌハギ	G, H1				VU	N
	カタバミ	オオヤマカタバミ	G				VU	NT	
	フウロソウ	アサマフウロ	G				NT	NT	
	トウダイグサ	ニシキソウ	H3					VU	
	ツゲ	ツゲ	H2					EN	
	クロウメモドキ	ミヤマクマヤナギ	G					NT	
	シナノキ	カラスノゴマ	G, H1					NT	
	スマレ	マキノスマレ	G, H1					NT	
	アカバナ	アシボソアカバナ	G					EN	
		シロウマアカバナ	G					NT	
	セリ	クロバナウマノミツバ	G					NT	
	双子葉植物 合弁花類	ツツジ	キョウマルシャクナゲ	G				VU	NT
			アカヤシオ	G					NT
		サクラソウ	ミヤマタゴボウ	G					NT
			サクラソウ	G, H1, H2, H3			指定	NT	VU
		リンドウ	コケリンドウ	H2					CR
			ハルリンドウ	G, H2					NT
			オノエリンドウ	G				EN	NT
			ホソバツルリンドウ	G				VU	NT
			センブリ	G, H1, H2, H3					NT
			テングノコヅチ	G				NT	NT
		ガガイモ	フナバラソウ	G				VU	VU
スズサイコ			G, H1				NT	NT	
コカモメヅル			H1					NT	
ヒルガオ		マメダオシ	H3				CR	CR	
ムラサキ		サフルリソウ	G					NT	

表 4.1.5-28(3) 重要な植物種の確認状況(維管束植物)

分類	科名	種名	既存資料	指定状況						
				I	II	III	VII	VIII		
被子植物	双子葉植物 合弁花類	クマツヅラ	コムラサキ	F					EN	
		シソ	カイジンドウ	カイジンドウ	G				VU	NT
			タチキランソウ	タチキランソウ	G, H1				NT	NT
			ムシヤリンドウ	ムシヤリンドウ	G, H1				VU	VU
			メハジキ	メハジキ	G, H1					NT
			キセワタ	キセワタ	G				VU	N
			ヤマジソ	ヤマジソ	G				NT	NT
			タイリンヤマハッカ	タイリンヤマハッカ	G					NT
			ゴマノハグサ	サワトウガラシ	サワトウガラシ	G, H1				
		アブノメ		アブノメ	G, H3					CR
		コケコゴメグサ		コケコゴメグサ	G				VU	EN
		ウリクサ		ウリクサ	H1, H3					VU
		アゼトウガラシ		アゼトウガラシ	G, H1					NT
		ツシマママコナ		ツシマママコナ	G					NT
		オオヒナノウスツボ		オオヒナノウスツボ	G, H1					NT
		イナサツキヒナノウスツボ		イナサツキヒナノウスツボ	G, H1					EN
		ヒキヨモギ		ヒキヨモギ	G, H1, H3					NT
		ヒヨクソウ		ヒヨクソウ	G					NT
		イヌノフグリ		イヌノフグリ	H2, H3				VU	VU
		ハマウツボ		オニク	オニク	G				
			ヤマウツボ	ヤマウツボ	G					EN
			ハマウツボ	ハマウツボ	G				VU	CR
			オカウツボ	オカウツボ	G					CR
		タヌキモ	ミミカキグサ	ミミカキグサ	G					VU
			イヌタヌキモ	イヌタヌキモ	G				NT	NT
		キキョウ	キキョウ	G, H1, H2, H3					VU	NT
		キク	トダイハハコ	トダイハハコ	G				VU	NT
			ハハコヨモギ	ハハコヨモギ	G				VU	EN
			シオン	シオン	H3				VU	
			タカネコンギク	タカネコンギク	G					NT
			キソアザミ	キソアザミ	G					NT
			ウラジロカガノアザミ	ウラジロカガノアザミ	G					NT
			リョウノウアザミ	リョウノウアザミ	H1					VU
			キクタニギク	キクタニギク	G				NT	NT
			アズマギク	アズマギク	G					VU
			フジバカマ	フジバカマ	H2				NT	
			アキノハハコグサ	アキノハハコグサ	G, H1				EN	NT
			スイラン	スイラン	G					EN
			タカサゴソウ	タカサゴソウ	G				VU	VU
			カワラニガナ	カワラニガナ	G, H1				NT	VU
			ヒメウスユキソウ	ヒメウスユキソウ	G			特別	NT	EN
			ミヤコアザミ	ミヤコアザミ	H1					NT
			ヒメヒゴタイ	ヒメヒゴタイ	G				VU	VU
			コウリンカ	コウリンカ	G, H2				VU	N
			タカネコウリンカ	タカネコウリンカ	G				NT	NT

表 4.1.5-28(4) 重要な植物種の確認状況(維管束植物)

分類	科名	種名	既存資料	指定状況						
				I	II	III	VII	VIII		
被子植物	双子葉植物 合弁花類	キク	ヤマボクチ	H3					VU	
			カントウタンポポ	G					EN	
			オナモミ	G, H1				VU	VU	
	単子葉植物	オモダカ	サジオモダカ	F, H3					CR	
			アギナシ	H3				NT	EN	
			ウリカワ	G, H1, H2, H3					VU	
		トチカガミ	ミズオオバコ	G, H1, H3, I				VU	VU	
			セキシウモ	H1, H3					EN	
		ヒルムシロ	ホソバミズヒキモ	G, H1					NT	
		イバラモ	トリゲモ	G				VU	CR	
		ユリ	ユウスゲ	G, H1, H3						NT
			ササユリ	G, H3				指定		NT
			ホソバナアマナ	G						NT
			ホトトギス	H2						NT
			アマナ	G, H1						VU
		ミズアオイ	ミズアオイ	H3				NT	CR	
		アヤメ	ヒメシャガ	H3				指定	NT	VU
			カキツバタ	H3					NT	NT
		イグサ	ミヤマイ	G				NT	NT	
		ホシクサ	ホシクサ	G, H1, H2, H3						VU
		イネ	セトガヤ	H1						EN
			コウヤザサ	G						NT
			エゾムギ	G					CR	NT
			アシカキ	G						NT
			アゼガヤ	H2						CR
			アワガエリ	H3						CR
			チョウセンタチイチゴツナギ	G						EN
			ウシクサ	G, H1						EN
			リシリカニツリ	G					VU	NT
			サトイモ	ヒトツバテンナンショウ	G, H1					
		イナヒロハテンナンショウ		G, H1			特一		CR	CR
		ウラシマソウ		G, H1				指定		VU
	ウキクサ	ヒンジモ	H3				VU	CR		
	カヤツリグサ	クロカワズスゲ	G						EN	
		タカネヤガミスゲ	G					NT	NT	
		アゼナルコ	F, H1						EN	
		スルガスゲ	G					EN	DD	
		オノエスゲ	G					VU	EN	
		クグガヤツリ	H1, H3						NT	
		アオガヤツリ	F, G, H1						NT	
		ヒメヒラテンツキ	F, G						NT	
	ラン	ギンラン	G, H1						NT	
		キンラン	G				特別	VU	EN	
		クマガイソウ	H3				特別	VU	CR	
		アツモリソウ	G, H3			特一	特別	VU	CR	

表 4.1.5-28(5) 重要な植物種の確認状況(維管束植物)

分類	科名	種名	既存資料	指定状況					
				I	II	III	VII	VIII	
被子植物	単子葉植物	ラン	イチヨウラン	G, H1					NT
			カキラン	G					NT
			ツチアケビ	G, H1					VU
			アケボノシュスラン	G					NT
			ヒメミヤマウズラ	G, H1					NT
			サギソウ	G, H3			指定	NT	CR
			ミズトンボ	G				VU	VU
			コハクラン	G				CR	CR
			ミヤマフタバラン	G					VU
			ホザキイチヨウラン	G, H1					NT
			アリドオシラン	G					NT
			カモメラン	G				NT	EN
			コケイラン	G, H1					NT
			ミズチドリ	G			指定		NT
			シロウマチドリ	G				VU	EN
			タカネサギソウ	G					VU
			オオバノトンボソウ	G, H1					NT
			ナガバキソチドリ	G, H1					EN
			ミヤマチドリ	G					EN
			コバノトンボソウ	G					NT
トキノソウ	G, H3			指定	NT	VU			
ヒトツボクロ	G, H1					NT			
オオハクウンラン	H1				VU	CR			
シナノシヨウキラン	G, H1				EN	EN			
合計 : 61科194種			-	0種	2種	15種	87種	190種	

注：各指定状況の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- I / 「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)
特天:特別天然記念物、国天:国指定天然記念物、県天:長野県指定天然記念物、
駒天:駒ヶ根市指定天然記念物、宮天:宮田村指定天然記念物、伊天:伊那市指定天然記念物
- II / 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)
国際:国際希少野生動植物種、国内:国内希少野生動植物種、特一:特定第一種国内希少野生動植物種、特二:特定第二種国内希少野生動植物種、緊急:緊急指定種
- III / 「長野県希少野生動植物保護条例」(平成 15 年 3 月 24 日 条例第 32 号)
指定:指定希少野生動植物、特別:特別指定希少野生動植物
- VII / 「環境省レッドリスト 2018 の公表について」(平成 30 年 5 月 22 日 環境省自然環境局野生生物課)
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、
VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:地域個体群
- VIII / 「長野県版レッドリスト 植物編 2014」(平成 26 年 3 月 長野県環境部自然保護課・他)
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 IA 類、EN:絶滅危惧 IB 類、
VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、N:留意種

c) 重要な植物種（非維管束植物）

調査区域における非維管束植物の重要な植物種は、12 目 19 科 58 種の非維管束植物の確認記録があった。非維管束植物の確認種のうち、重要な植物種の該当種を表 4. 1. 5-29（P4-90～91）に示す。なお、非維管束植物の藻類において重要な植物種は確認されなかった。

表 4.1.5-29(1)重要な植物種の確認状況(非維管束植物)

分類	目名	科名	種名	既存資料	指定状況					
					I	II	III	VII	VIII	
蘚苔類	ミズゴケ	ミズゴケ	ハクサンミズゴケ	G					CR+EN	
			シナノミズゴケ	G					CR+EN	
			コバノミズゴケ	G					CR+EN	
			スギバミズゴケ	G					CR+EN	
			ウスベニミズゴケ	G					CR+EN	
			キダチミズゴケ	G					CR+EN	
			ハリミズゴケ	G					CR+EN	
			ヒメミズゴケ	G					CR+EN	
			チャミズゴケ	G					CR+EN	
			ホソバミズゴケ	G					NT	
			フナガタミズゴケ	G					CR+EN	
			ミネミズゴケ	G					CR+EN	
			ホソベリミズゴケ	G				DD	NT	
			フサバミズゴケ	G					CR+EN	
			ムラサキミズゴケ	G					CR+EN	
			コアナミズゴケ	G					CR+EN	
			オオミズゴケ	G, H3					NT	NT
			イボミズゴケ	G						CR+EN
			ウツクシミズゴケ	G						CR+EN
			ゴレツミズゴケ	G						CR+EN
			サンカクミズゴケ	G						CR+EN
			アオモリミズゴケ	G						CR+EN
			コサンカクミズゴケ	G						CR+EN
			サケバミズゴケ	G						CR+EN
			ホソバミズゴケモドキ	G						NT
			ミヤマミズゴケ	G						CR+EN
			ウロコミズゴケ	G, H3						CR+EN
			ワラミズゴケ	G						CR+EN
	ユガミミズゴケ	G						CR+EN		
	ネジレミズゴケ	G						CR+EN		
	シタミズゴケ	G						CR+EN		
	ワタミズゴケ	G						CR+EN		
	ホソミズゴケ	G						CR+EN		
	ヒナミズゴケ	G						CR+EN		
			ミズゴケ類*	H3				NT, DD, ランク無し のいずれか	CR+EN, NT のいずれか	
	ホウオウゴケ	ホウオウゴケ	ジョウレンホウオウゴケ	G				VU	DD	
	ヒカリゴケ	ヒカリゴケ	ヒカリゴケ	H3				NT	NT	
	シトネゴケ	ハイゴケ	ヒメコガネハイゴケ	G				CR+EN	CR+EN	
	ウロコゴケ	ツボミゴケ	エゾヒメソロイゴケ	G				VU	CR+EN	
			イギイチョウゴケ	G				VU	VU	
	ゼニゴケ	ハマグリゼニゴケ	ハマグリゼニゴケ	G				VU	VU	
		ジンチョウゴケ	チチブゼニゴケ	G				VU	VU	
	ウキゴケ	ウキゴケ	イチョウウキゴケ	H3				NT	N	

表 4.1.5-29(2) 重要な植物種の確認状況(非維管束植物)

分類	目名	科名	種名	既存資料	指定状況				
					I	II	III	VII	VIII
地衣類	チャシブゴケ	ウメノキゴケ	オーアケシゴケ	G				CR+EN	CR+EN+VU
			サルオガセ類	H3				VU, NT, DD, ランク無し のいずれか	NT, ラン ク無し のいずれか
		カイガラゴケ	ヒメカイガラゴケ	G					DD
		カラタチゴケ	シナノカラタチゴケ	G					NT
		イワノリ	ヒメトサカゴケ	G					DD
	ツメゴケ	カプトゴケ	テリハヨロイゴケ	G					NT
			アツバヨロイゴケ	G					NT
		ツメゴケ	ヒメツメゴケ	G				VU	CR+EN+VU
	イワタケ	イワタケ	イワタケ	H2					NT
			タカネイワタケ	G					NT
	菌類	ヒダナシタケ	イボタケ	クロカワ	H2				DD
タコウキン			ブクリョウ	H2					NT
ハラタケ		ヒラタケ	シイタケ	H2					NT
		キシメジ	シロシメジ	H2					DD
			マツタケ	H2					NT
蘚苔類 : 7目8科42種 地衣類 : 3目7科11種 菌類 : 2目4科5種 合計 : 12目19科58種				-	0種	0種	0種	16種 (17件)	56種 (57件)

注1: 種名の末尾に"*"があるものは同属で種レベルの種が確認されているため、種数の数えから除いている。

注2: 各指定状況の内容は略称であり、それぞれ以下のことを示す。

- I / 「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)
 特天: 特別天然記念物、国天: 国指定天然記念物、県天: 長野県指定天然記念物、
 駒天: 駒ヶ根市指定天然記念物、宮天: 宮田村指定天然記念物、伊天: 伊那市指定天然記念物
- II / 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)
 国際: 国際希少野生動植物種、国内: 国内希少野生動植物種、特一: 特定第一種国内希少野生動植物種、特二: 特定第二種国内希少野生動植物種、緊急: 緊急指定種
- III / 「長野県希少野生動植物保護条例」(平成15年3月24日 条例第32号)
 指定: 指定希少野生動植物、特別: 特別指定希少野生動植物
- VII / 「環境省レッドリスト2018の公表について」(平成30年5月22日 環境省自然環境局野生生物課)
 EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧I類、CR: 絶滅危惧IA類、EN: 絶滅危惧IB類、
 VU: 絶滅危惧II類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、LP: 地域個体群
- VIII / 「長野県版レッドリスト 植物編 2014」(平成26年3月 長野県環境部自然保護課・他)
 EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧I類、CR: 絶滅危惧IA類、EN: 絶滅危惧IB類、
 VU: 絶滅危惧II類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、N: 留意種

3) 生態系の状況

(1) 生態系の概況

調査区域の地形・環境構成要素をみると、天竜川や三峰川などの河川の周辺に伊那盆地が開け、伊那盆地から西側は木曾山地、東側は伊那山地に至る地域であり、樹林や農耕地、河川を中心とした比較的多様な生態系が成立していると考えられる。

木曾山地や伊那山地においては、アカマツ群落、カラマツ植林などの針葉樹の樹林帯や、クリ、クヌギ、コナラといった落葉広葉樹林を基本とした樹林を中心とした生態系が、伊那盆地の台地・低地においては水田、畑地といった農耕地環境に加え、段丘斜面等で帯状に見られるアカマツ群落やカスミザクラ-コナラ群落などの樹林環境が加わり、農耕地を中心とした比較的多様な生態系が成立していると考えられる。また、水辺環境は、主に河川や池、水田などの場所に限られるが、水量や流速などの環境構成要素の違いで、それぞれで多少異なった生態系が成立していると考えられる。

(2) 自然環境の類型化及び生息・生育基盤の分類

自然環境の類型化及び生息・生育基盤の分類については、生物の生息・生育基盤となっている地形条件と植生条件とを重ね合わせるにより自然環境の類型区分を行い、生態系の概略を把握した。自然環境類型区分図は、動物や植物の生息・生育環境として関連が強いと考えられる地形分類図と現存植生図を重ね合わせ、植生等の環境構成要素の連続性や規模を考慮して自然環境を区分した。

調査区域の自然環境の類型区分は、全体で7類型に大きく分類され、山地では2類型に、台地・低地では市街地を含み3類型、河川では2類型に区分される。自然環境類型区分を表4.1.5-30 (P4-93) 及び図4.1.5-3 (P4-94) に示す。

表 4.1.5-30 自然環境類型区分の概況

No	自然環境類型区分	地形区分の概況		植生区分の概況	生息・生育基盤の種類
1	山地 - 二次林・人工林	標高 600～800m 以上のところに広がる山地で、木曾山地または伊那山地へと続く。	起伏量*200m 以上 傾斜 8° 以上	クリ - ミズナラ群落	樹林地
				カスミザクラ - コナラ群落	
				アカマツ群落	
				カラマツ植林	
				スギ・ヒノキ・サワラ植林	
2	山地 - 二次草地・農耕地			伐跡群落	疎林・林縁・草地
				牧草地	
				畑地雑草群落	
				水田雑草群落	
3	台地・低地 - 自然林・二次林・人工林	標高 600～800m 以下のところに広がる伊那盆地である。	起伏量*100～200m または 傾斜 3～8°	ケヤキ群落	樹林地
				カスミザクラ - コナラ群落	
				アカマツ群落	
				スギ・ヒノキ・サワラ植林	
4	台地・低地 - 農耕地		起伏量*100m 未満 傾斜 3° 未満	水田雑草群落	農耕地
				畑地雑草群落	
				落葉果樹園	
5	市街地			市街地	-
				緑の多い住宅地	
				造成地	
6	大規模河川 - 自然林・自然裸地・開放水域	天竜川、三峰川が伊那盆地を貫流する。		ヤナギ低木群落	河川
				自然裸地	
				開放水域	
7	中規模河川 - 自然林・二次林・自然裸地・開放水域	新宮川、太田切川、藤沢川などが山地から天竜川に流入する。河岸段丘斜面が発達している。		ヤナギ低木群落	河川
				アカマツ群落	
				自然裸地	
				開放水域	

※：起伏量とは一定範囲の標高の最高点と最低点との差を示す。[出典の地形分類図では、2×2km の方形区での高低差]

出典：「20 万分の 1 土地分類図（長野県）」（昭和 49 年 経済企画庁総合開発局）

「第 3 回自然環境保全基礎調査（植生調査）現存植生図【伊那、高遠、赤穂、市野瀬】

（昭和 60・63 年 環境庁）

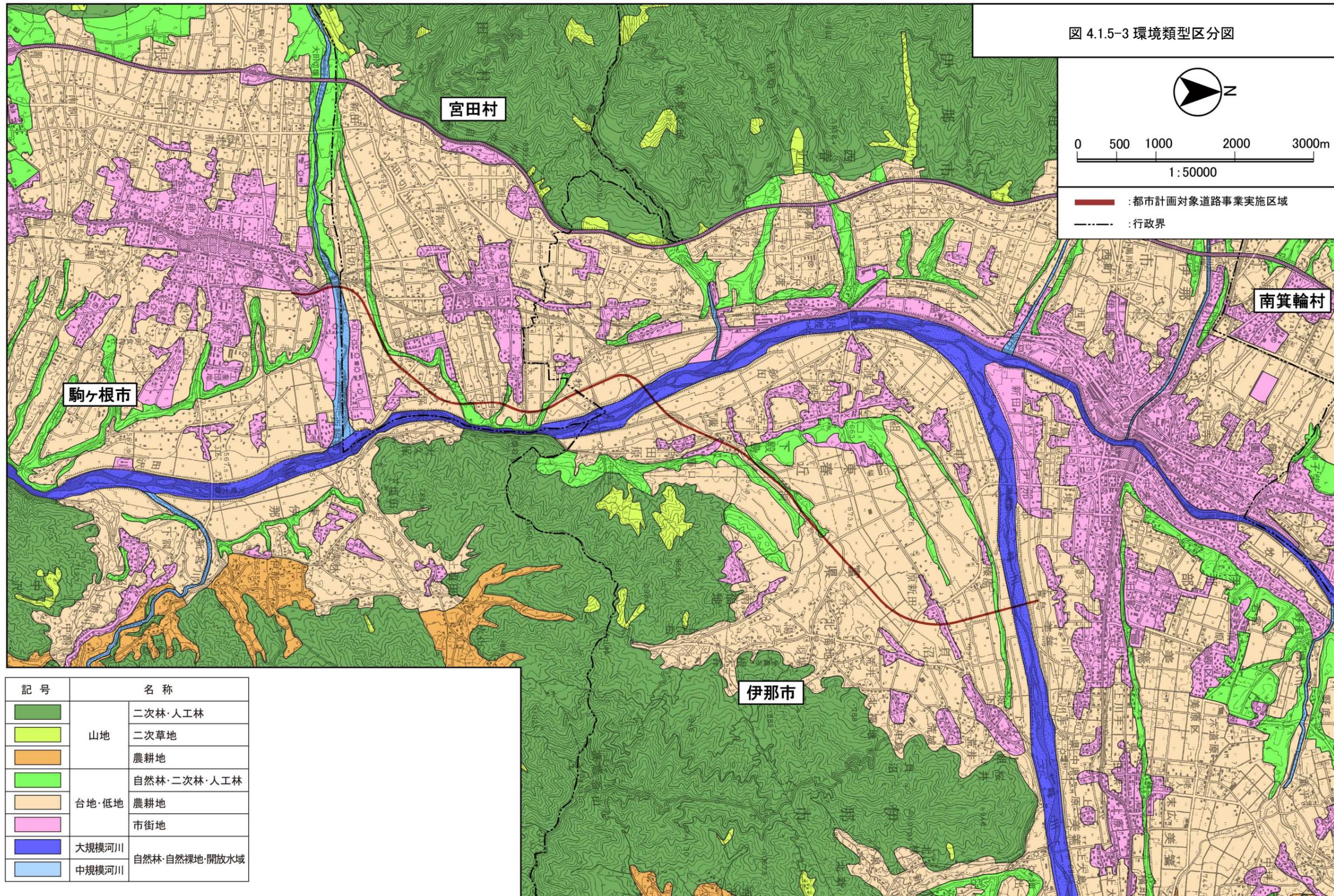
「第 4 回自然環境保全基礎調査（植生調査）現存植生変更図【伊那、高遠、赤穂、市野瀬】

（平成 6 年 環境庁）

「第 5 回自然環境保全基礎調査（植生調査）現存植生変更図【伊那、高遠、赤穂、市野瀬】

（平成 11 年 環境庁）

図 4.1.5-3 環境類型区分図



記号	名称	
	山地	二次林・人工林
		二次草地
		農耕地
	台地・低地	自然林・二次林・人工林
		農耕地
		市街地
	大規模河川	自然林・自然裸地・開放水域
	中規模河川	

※:本図は、以下の資料を基に作成。
 「20万分の1土地分類図(長野県)」(昭和49年 経済企画庁総合開発局)
 「20万分の1土地利用図【飯田、甲府】」(昭和57年 国土地理院)
 「第3回自然環境保全基礎調査(植生調査)現存植生図【伊那、高遠、赤穂、市野瀬】」(昭和60・63年 環境庁)
 「第4回自然環境保全基礎調査(植生調査)現存植生図【伊那、高遠、赤穂、市野瀬】」(平成6年 環境庁)
 「第5回自然環境保全基礎調査(植生調査)現存植生図【伊那、高遠、赤穂、市野瀬】」(平成11年 環境庁)
 「5万分の1地形図【伊那、高遠、赤穂、市野瀬】」(昭和元年、3.9.14年 国土地理院)

(3) 生態系の構成

調査区域の動植物種は、広域的複合環境を利用する種・種群、複合環境を利用する種・種群及び特定の環境で生息・生育する種・種群の3区分に大きく分類される。広域的複合環境を利用する種や複合環境を利用する種・種群のうち行動範囲が広い種・種群は、食物連鎖の上位性または高次消費者に、特定の環境で生息・生育する種・種群は、低次消費者（生産者）に位置する傾向が見られる。調査区域の生態系を構成する動植物種について、自然環境類型区分の生息・生育基盤を軸に自然環境の利用形態や行動範囲の観点で分類した。生態系の主な構成を図4.1.5-4に、食物連鎖式図を図4.1.5-5（P4-96）に示す。

項目		樹林地	疎林・林縁・草地	農耕地	河川		
広域的複合環境を利用する種・種群		●オオタカ・ノスリ					
		●キツネ					
		●サギ類（ゴイサギ、ダイサギ、コサギ等）					
複合環境を利用する種・種群	行動範囲が広い	●ツキノワグマ・イノシシ					
			●チョウゲンボウ				
			●イタチ				
	行動範囲が狭い	●ムクドリ・ヒヨドリ・キジバト		●ヤマセミ・カワセミ			
		●アオダイショウ・ヤマカガシ・シマヘビ・ニホンマムシ					
		●セキレイ類・ホオジロ					
		●ニホンアカガエル・カジガガエル・シュレーゲルアオガエル・アズマヒキガエル					
		●トンボ類（オニヤンマ・シオカラトンボ・アキアカネ等）					
		●オオムラサキ					
特定の環境を中心に利用する種・種群	行動範囲が広い	●ムササビ・ニホンリス・タヌキ		●カモ類			
		●キツツキ類・カラ類		●ウグイス・メジロ	●モズ	●イカルチドリ・イソシギ・オオヨシキリ	
		●ジムグリ・シロマダラ		●スズメバチ類	●トノサマガエル・アカハライモリ	●カヤネズミ	
		●ハコネサンショウウオ		●ニホントカゲ	●ミナミメダカ・ドジョウ	●ウグイ・サツキマス <small>(アマコ)</small>	
	行動範囲が狭い	●カミキリムシ類		●シオヤアブ	●ヤマトシジミ・モンシロチョウ	●ミヤマシジミ・コムラサキ	
		●ミドリシジミ・クロミドリシジミ		●ウスバシロチョウ・イチモンジチョウ	●ヘイケボタル	●ヘビトンボ・ゴマダラチビゲンゴロウ	
		●エゾゼミ					
多くの環境で生育する種		●スギナ・ツユクサ・ドクダミ・ワラビ・クズ					
		●アケビ・サルナシ・ウツギ・アマドコロ					
		●ヨモギ・オオマツヨイグサ・シロツメクサ・エノコログサ・タネツケバナ					
特定の環境で生育する種	分布範囲が広い	●クリ・クヌギ・コナラ		●ノリウツギ	●ウマノアシガタ	●カワヤナギ	
		●アカマツ		●ミツバツツジ	●ミゾソバ	●ツルヨシ	
		●カラマツ		●ヤマカモジグサ	●コハコベ	●オギ	
	分布範囲が狭い	●イチリンソウ		●オミナエシ	●ホタルイ	●ムシトリナデシコ	
		●クモキリソウ		●ツリガネニンジン	●コナギ	●カワラヨモギ	
		●アキノキリンソウ		●オヤマボクチ	●バイカモ	●コマツナギ	
		●ヤグルマソウ		●カタクリ			

注：●は、当該動植物の生息・生育の中心と考えられる基盤を示す。

図 4.1.5-4 生態系の主な構成

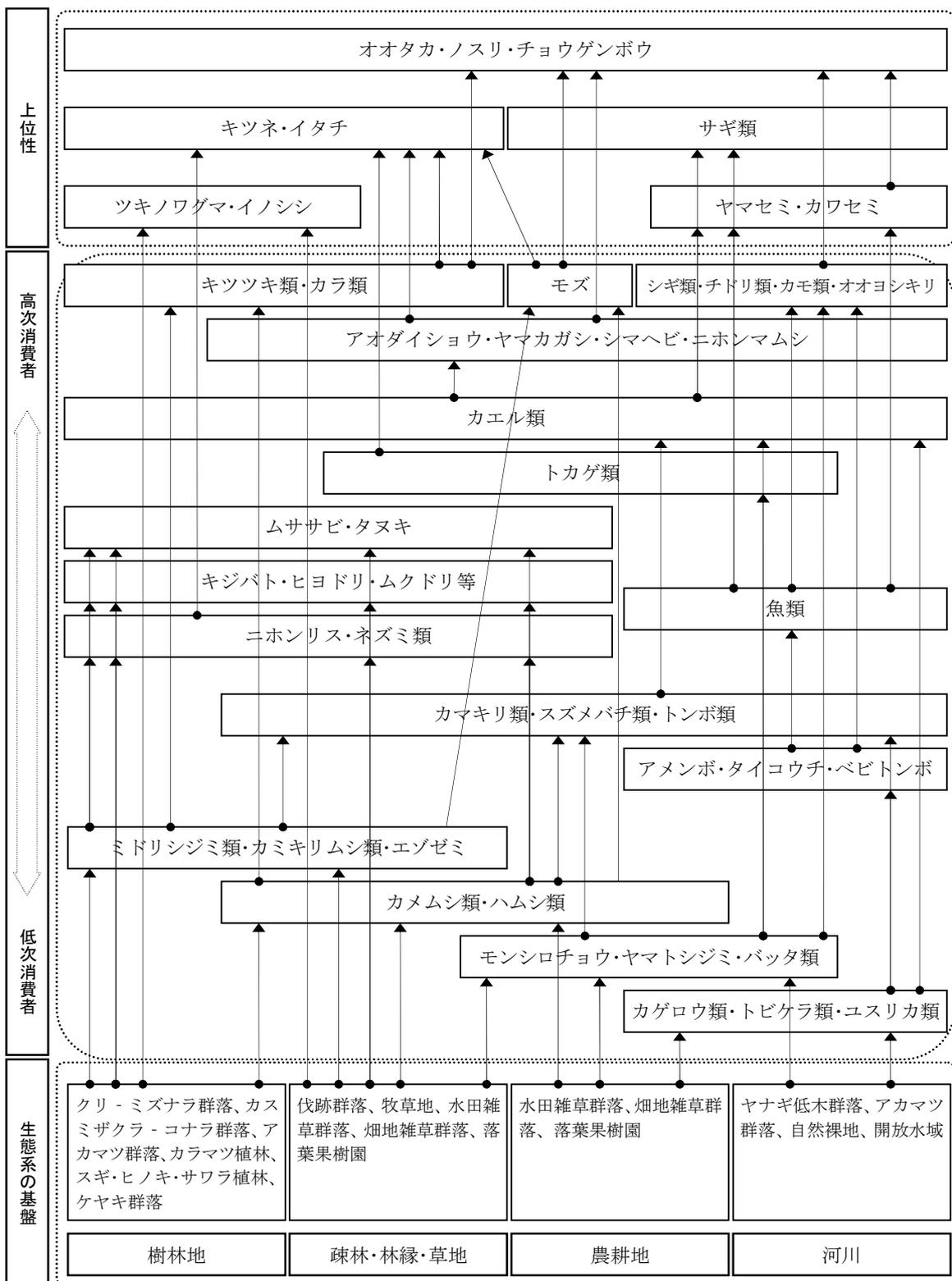


図 4.1.5-5 食物連鎖模式図

(4) 注目種の候補の抽出

a) 抽出の考え方

生態系の構成を踏まえ、事業の影響による生態系の構造と機能の変化を指標する動植物種等として、注目種の候補の抽出を行った。上位性・典型性及び特殊性の視点から都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺の生態系の特性を効率的かつ効果的に把握できるような動植物種等を注目種の候補として抽出した。抽出する際の考え方を表 4.1.5-31 に示す。

表 4.1.5-31 上位性・典型性・特殊性の考え方

視点	考え方
上位性	生態系を形成する動植物種等において栄養段階の上位に位置する種を対象とする。該当する種は栄養段階の上位の種で、生態系の攪乱や環境変化等の総合的な影響を指標しやすい種が対象となる。また、小規模な湿地やため池等、対象地域における様々な空間スケールの生態系における食物網にも留意し、対象種を選定する。そのため、哺乳類、鳥類等の行動圏の広い大型の脊椎動物以外に、爬虫類、魚類等の小型の脊椎動物や、昆虫類等の無脊椎動物も対象となる場合がある。
典型性	対象地域の生態系の中で、各環境類型区分内における動植物種等と基盤的な環境あるいは動植物種等との相互連関を代表する動植物種等、生態系の機能に重要な役割を担うような動植物種等（例えば、生態系の物質循環に大きな役割を果たしている、現存量や占有面積の大きい植物種、個体数が多い動物種、代表的なギルド※に属する種等）、動植物種等の多様性を特徴づける種、生態遷移を特徴づける種、回遊魚のように異なる生態系間を移動する種等が対象となる。また、環境類型区分ごとの空間的な階層構造にも着目し、選定する。
特殊性	遊水池、洞窟、噴気口の周辺、石灰岩地域や、砂泥底海域に孤立した岩礁や貝殻礁等、成立条件が特殊な環境で、対象事業に比べて比較的小規模である場に注目し、そこに生息する動植物種等を選定する。該当する動植物種等としては特殊な環境要素や特異な場の存在に生息が強く規定される動植物種等が挙げられる。

※：ギルドとは同一の栄養段階に属し、ある共通の資源に依存して生活している種のグループを示す。

出典：「環境アセスメント技術ガイド 生物の多様性・自然との触れ合い」（平成 29 年 3 月 一般財団法人日本環境アセスメント協会）

b) 注目種の候補の抽出

抽出の考え方にに基づき、上位性、典型性、特殊性の観点で注目種の候補を抽出した。抽出に際しては今後の調査等を勘案し、調査しやすい種を優先した。抽出の考え方にに基づき、上位性、典型性、特殊性の観点で抽出した注目種の候補を表 4.1.5-32 (P4-98~99) に示す。なお、都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺において特殊な環境要素を有す場や特異な場が見られなかったことから、特殊性の注目種の候補は選定していない。

表 4.1.5-32(1)都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺における生態系に係る注目種等の候補の抽出

区分	生息・生育環境		種類	選定理由
上位性	広域的複合環境	樹林地	ノスリ	栄養段階の上位に位置する肉食の猛禽類で、平地、丘陵から山地まで広く分布する。定点観察法等の調査手法が確立されている。
		疎林・林縁・草地	キツネ	栄養段階の上位に位置する肉食の哺乳類で、平地、丘陵から山地まで広く分布する。フィールドサイン等の調査手法が確立している。
	複合環境	疎林・林縁・草地、農耕地 河川	チョウゲンボウ	栄養段階の上位に位置する肉食の猛禽類で、平地から丘陵地の草地環境並びに営巣地としての崖地を利用している。定点観察法等の調査手法が確立されている。
		農耕地 河川	ヤマセミ カワセミ サギ類	栄養段階の上位に位置する肉食（魚介類）の鳥類（留鳥）で、水辺の生物の多様性を指標すると考えられる。定点観察法などの調査手法が確立している。
典型性	複合環境	樹林地 疎林・林縁・草地	ムクドリ ヒヨドリ キジバト	平地から山地までの農耕地や樹林等に広範囲に生息する留鳥で、オオタカ・ノスリ等の餌資源としても重要である。生息数が多いので確認が容易であり、ラインセンサス法等の調査により定量的な把握が可能である。
			オオムラサキ	丘陵地から山地の樹林に広く分布する昆虫類で、成虫は主にクヌギなどの樹液を、幼虫はエノキを食する。越冬幼虫調査などの調査手法が確立されている。
		樹林地、河川	カジカガエル	丘陵地から山地までの主に溪流周辺の水辺と樹林に生息している。鳴き声で容易に確認できる。
	疎林・林縁・草地 農耕地 河川	シュレーゲル アオガエル	平地から丘陵地の水田や止水環境周辺の水辺と樹林に生息している。卵のうによる確認が可能である。	
		トンボ類	流水環境や止水環境に生息する昆虫類である。比較的 生息数が多いので確認が容易であり、幼虫の調査も可能である。	
	特定の環境	樹林地	ムササビ ニホンリス	丘陵地から山地の樹林に広く分布する哺乳類で、種子や昆虫類を食べる。フィールドサイン並びに巣箱トラップなどの調査手法が開発されている。
			タヌキ	丘陵地から山地の樹林に広く分布する哺乳類で、種子や昆虫類を食べる。フィールドサインなどの調査手法が開発されている。
			エゾセミ	丘陵地から山地の樹林に広く分布する昆虫類である。鳴き声で容易に確認できる。
			アカマツ群落	丘陵地から山地まで主に乾燥してやせた立地に成立する代表的な樹林である。植生調査により階層構造や植生状態などの把握が行える。
			カシミザクラ - コナラ群落	丘陵地から山地まで広く成立する落葉広葉樹林で、多様な動物の生息基盤となる可能性がある。植生調査により階層構造や植生状態などの把握が行える。

表 4.1.5-32(2)都市計画対象道路事業実施区域及びその周辺における
生態系に係る注目種等の候補の抽出

区分	生息・生育環境		種類	選定理由
典型性	特定の環境	疎林・林縁・草地	ウグイス	平地から山地まで主に樹林周辺の藪で繁殖する留鳥である。定点観察などの調査手法が確立されている。
			シオヤアブ	平地から丘陵地までの草地的環境に見られる昆虫類で、主に初夏から夏にかけて見られる。他の昆虫類を捕食するため、良好な草地的環境の指標となる。
			伐跡群落 牧草地	植生の維持管理が無いと遷移が急速に進行し、数年で植生が大きく変化する。局所的に分布しているので、植生状態の変化はその場所を利用する動物の生息に大きく影響する。植生調査により階層構造や植生状態などの把握が行える。
		農耕地	モズ	平地から丘陵地までの主に集落や農耕地の周辺などに生息する。テリトリーマッピングなどの調査手法が確立されている。
			ミナミメダカ ドジョウ類	農業用水路や細流などに見られる魚類である。比較的生息数が多いので確認が容易である。
			ヘイケボタル	水田、湿地等の止水環境に幼虫が生息する昆虫類である。夜間調査により成虫の確認が容易である。
			水田雑草群落 畑地雑草群落	農耕活動に伴って成立する群落等である。土地利用や整備状態の変化は、農耕地を利用する動物の生息に大きく影響する可能性がある。植生調査により農耕地の利用形態や規模などの把握が行える。
		河川	カモ類	河川の堰貯留域などの開放水面に多く見られる水鳥である。河川及びその周辺における餌資源の豊かさを指標すると考えられる。定点観察などの調査手法が確立されている。
			オオヨシキリ	平地から丘陵地までの主にヨシ原に夏鳥として飛来する。定点観察、テリトリーマッピングなどの調査手法が確立されている。
	カヤネズミ		平地から山地までの水辺の草地に主に生息する哺乳類で、種子や昆虫類を食べる。ススキやオギなどの茎に球形の巣を作るので確認が可能である。	
	ウグイ		天竜川等の大規模河川の上中流域に見られる魚類である。比較的生息数が多いので確認が容易である。	
	サツキマス (アマゴ)		天竜川に注ぐ中規模河川の中下流域に見られる魚類である。比較的生息数が多いので確認が容易である。	
	ミヤマシジミ		主に河川敷の低茎草地などに生息する昆虫類(チョウ類)で、幼虫の食草はコマツナギである。生息地では比較的個体数が多いので確認が容易である。	
ヤナギ低木群落 自然裸地	主に河川敷で見られる群落等で、洪水等の攪乱の影響を強く受け、遷移・攪乱の程度を指標すると考える。植生調査により樹林地・高茎草地・低茎草地・裸地の分布や植生状態などの把握が行える。			
特殊性	特殊環境	-	選定はない	-